

国際医療協力

Vol.20 No.9・10 1997 **9/10** 合併号



AMDA 国際ボランティア研修センター開所式

AMDA

AMDAへのご支援を!

国際ボランティア・ダイヤル

ご自宅からできる国際貢献にあなたも参加しませんか。

国際協力・ボランティア活動等、日頃からやってみたくと思うけれど、

参加方法がわからない、情報がない……という方、

また「ボランティア」という言葉は聞いたことがあるけれど

自分が参加することはあまり考えたことがなかった……という方。

ご自宅や事務所からおかけになる国際電話を通じて国際協力活動に参加してみませんか?

「001(KDD)」で国際電話をおかけになると、

その国際電話料金に応じてKDDから「AMDA」に対して資金協力され、

その資金は「AMDA」の国内・海外の人道援助活動費用として

有効に使わせていただきます。

※登録料や基本料等は一切かかりません。

お問い合わせ先:AMDA本部事務局 TEL:086-284-7730

ゼロゼロワンダフル、KDD。



KDD

Japan's Global Communications

日本の
国際電話は、
001

KDDテレビCMモデル ジュリー・グリアフィスさん(ニューヨーク・マンハッタン アイランド)

たとえばニューヨークへ、ダイヤル直通。

国番号

市外局番※

001 ▶ 1 ▶ 212 ▶ 先方の電話番号

※0から始まる市外局番については、最初の0を省いて下さい。

詳しくはKDDのオペレータがご案内します。お気軽に、局番なしの**0057(24時間・無料)**へどうぞ。



国際電話センター
受付時間: 24時間
受付場所: 各支店

Contents

●AMDAプロジェクト紹介	2
●今なぜNGOなのか（アフガニスタンABCプロジェクト）	6
●AMDAボランティア研修センター	8
●JEN 旧ユーゴスラビア報告	12
●中国雲南省歯科診療報告	21
●カンボジアクリニック報告	28
●アフリカ・ウガンダ報告	30
●AMDA国際医療情報センター便り	33
●ドクトル外交官奮闘記	36
●スタディツアー報告	38
●栃木便り	40
●ボランティアリレー	44
●事務局便り	46

AMDA プロジェクト紹介

① インド連邦カルナタカ州無医村

地区巡回診療プロジェクト 1988年

② ネパール王国ビスヌ村地域保健医療

プロジェクト 巡回診療のみ継続中

1991年

③ 在日外国人医療プロジェクト

(東京・大阪)

1991年4月17日にAMDA国際医療情報センターを設立。93年5月より(財)東京都健康推進財団の外国人医療関連事業の委託もうける。在日外国人を初めとする関係者からの医療に関する電話相談、受け入れ医療機関の紹介などを実施。



④ イラン国内クルド湾岸戦争被災民救

援プロジェクト

1991年

⑤ ピナツボ火山噴火被災民救援医療

プロジェクト

1991年

⑥ エチオピア・チグレ州難民救援医療

プロジェクト

1992年

⑦ バングラデシュ・ミャンマー

難民緊急医療プロジェクト

1992年

⑧ ネパール国内ブータン難民

緊急医療プロジェクト

1992年5月よりネパール支部により活動開始。現在難民と地元ネパール人民双方を診療する第二次医療センターとしてその地の基幹医療機関の役割を果たしている。



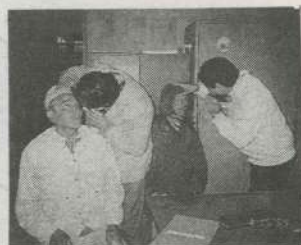
⑨ カンボジア地域医療プロジェクト

1992年より、プノムスロイ群病院の支援を開始。近辺の村を予防接種、蚊帳の無料配布プロジェクトを実施。



⑩ ネパール・タンコット村眼科医療&母子保健プロジェクト

1992年よりカトマンズ近郊のタンコット村で眼科検診・診療と母子保健を中心に据えた総合地域保健プロジェクト開始。



⑪ インドネシア・フローレス島大震災

救援医療プロジェクト 1992年12月

⑫ ソマリア難民緊急援助医療

プロジェクト

1993年1月よりケニア、ジブチ、ソマリア本国難民救援医療活動を「アジア多国籍医師団」として開始。



⑬ ジブチ産婦人科病院人材育成

プロジェクト

1993年

⑭ ネパール・バングラデシュ大洪水被災民緊急救援医療プロジェクト

1993年

⑮ タイ国チェンライAIDSプロジェクト

1993年

アジア多国籍医師団

1993年5月22日に創設。アジアの自然災害や難民などの緊急時に俊敏に対応できる全支部から(15ヶ国)から構成されたAMDAの緊急救援医療部門である。

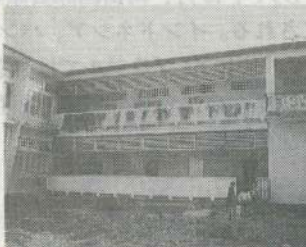
16 インドボンベイ周辺地域保健医療プロジェクト

1993年10月のソラブル地震被災者巡回診療の後をうけての整形外科診療・知能障害児早期発見・防止医療、高齢者・母子医療、エイズ防止教育の各プロジェクトを1995年4月より開始。



17 カンボジア精神保健プロジェクト

1994年より、ポンペン市内のシアヌーク病院で、カンボジア国内初の精神科病棟を設置。病院スタッフのトレーニング、薬剤の提供を行っている。



18 インドネシアスマトラ島南部地震救援医療プロジェクト 1994年2月

19 モザンビーク帰還避難民プロジェクト

1994年2月よりモザンビーク南部カザ州において開発医療活動を行っている。



20 旧ユーゴスラビア日本緊急救援NGOグループ援助プロジェクト

1994年6月より日本緊急救援NGOグループ(JEN)の活動として、クロアチア、セルビアにおいて、緊急医療、生活改善指導、職業訓練、教育、物資援助などの多方面にわたる援助を行う。



21 ネパール・タメル地区ストレートチルドレン診療プロジェクト 1994年2月

22 ルワンダ難民緊急救援プロジェクト

1994年5月より、北部ガラマ難民キャンプで、ルワンダ難民を対象に緊急救援プロジェクトを開始。



撮影 山本将文氏

23 ルワンダ難民緊急救援ゴマプロジェクト

1994年8月

24 ルワンダ難民緊急救援ブカブプロジェクト

1994年8月

25 ルワンダ国内病院再建プロジェクト

ル・トンド診療所(ルワンダキガリ市)国内避難民、住民を対象に94年10月より支援活動を開始。



26 タイHIV患者カウンセリングプロジェクト

1994年10月

27 JICAフィリピン・ターラック州家族計画母子保健プロジェクト

1994年10月

28 阪神大震災緊急救援プロジェクト

1995年1月神戸市長田区において地震被災者に対する緊急援助活動を実施。



29 JICAザンビア保健医療プロジェクト

1995年4月

30 インド地域医療プロジェクト

1995年4月

31 チェチェン難民救援プロジェクト

1995年4月より(JENの活動として)ロシアのイングーシ、チェチェンにおいて、救急医療および子供のための予防接種プロジェクトを開始。



42 ミャンマー地域医療プロジェクト

1996年3月、ABA、MISとの協力で浄水器一台をメティーラ市のカンナジョン寺院に設置。救急車も贈呈。地域の衛生状態の改善、地域医療活動を行う。



32 サハリン大震災緊急プロジェクト

1995年5月

33 スーダン国内避難民救援プロジェクト

1995年

34 アンゴラ帰還難民プロジェクト

1995年7月よりアンゴラへの難民帰還を促進する為、北部ザイール国境付近の病院を再建する。



35 タイ アニマル・バンクプロジェクト

1995年7月

36 北朝鮮大洪水救援プロジェクト

1995年9月

37 インドネシアスマトラ島大震災救援プロジェクト

1995年10月

38 メキシコ大震災緊急救援プロジェクト

1995年10月に発生した大震災緊急救援の為医薬品と医師ら4名を派遣



39 フィリピン台風被害救援プロジェクト

1995年10月

40 インドネシア中央スラウェシ島地震救援プロジェクト

1996年

41 インドネシア・ジャワ島地域プロジェクト

1996年

43 INNED(緊急救援と開発のための国際NGOネットワーク)プロジェクト

1994年10月、岡山国際貢献NGOサミット時に設立される。インドネシア、バングラデシュ、フィリピン、ボリビア、ブラジルでは緊急事態対応体制と称して、NGOによる相互理解と相互支援のネットワーク作りを開始した。

44 中国雲南省緊急救援プロジェクト

1996年1月に発生した大震災緊急救援のため、医薬品や生活物資を送る。更に、医師ら数名を派遣した。



45 中国四川省雪害緊急救援プロジェクト

1996年2月

46 インドネシアビアク島大震災緊急救援プロジェクト

1996年2月ビアク島でM8.0の地震が発生。インドネシア支部より、Dr. 2名、日本支部より調査員1名派遣。抗生物質、生活物資を送った。



47 中国雲南省趙君支援プロジェクト

48 中国雲南省小学校再建プロジェクト

49 中国雲南省診療所設置プロジェクト

1996年3月

50 中国新疆ウイグル自治区地震緊急プロジェクト

1996年3月

51 中国四川省チベット族ヘルスポストプロジェクト

1996年4月

52 モザンビーク地域総合振興プロジェクト (ガザ州)

53 ケニアヘルスセンター支援プロジェクト

54 レバノン被災民緊急救援プロジェクト

4月11日イスラエルはレバノン南部に無差別砲撃を開始した。避難民救済のために、緊急救援チームを派遣した。



55 バングラデシュ・サイクロン緊急救援プロジェクト

1996年5月

5月13日発生した竜巻による被災者救済のため医薬品と医師、看護婦、調整員を派遣した。



56 ウガンダ地域保健プロジェクト

57 ボスニア難民被災民救援プロジェクト

1996年6月

1996年1月よりサラエボ、グラジュデ、バニャルカにおいて、病院再建、医療技術支援などの活動を実施。



58 中国貴州省大洪水緊急救援プロジェクト

1996年7月

59 UNVロシア連邦サハ共和国医療協力プロジェクト

1996年7月

60 メコン川流域 (ベトナム・カンボジア・ラオス) 大洪水被災者緊急救援プロジェクト

1996年10月

9月半ばよりメコン川の水位が増し大洪水が発生。洪水の被災者救済と感染病予防のため緊急医療チームを派遣した。



61 ケニア赤痢緊急救援プロジェクト

1996年11月

62 インド・サイクロン緊急救援プロジェクト

1996年11月

63 ルワンダ難民救援プロジェクト

1996年11月

64 ボスニア医師専門技術研修プロジェクト

1996年11月

65 サハ共和国医師専門技術研修プロジェクト

1996年11月

AMDA概要

【理念】 Better Quality of Life for a Better Future

【沿革】 1979年タイ国にあったカンボジア難民キャンプにかけつけた一名の医師と二名の医学生の活動から始まる。

【現状】 アジアの参加国は18ヶ国。会員数は日本約1,500名、海外約200名。世界各地で種々のプロジェクト、フォーラムを実施中。

【入会方法】 郵便振替用紙にて所定の年会費を納入して下さい。

- ・医師会員 15,000円
- ・一般会員 10,000円
- ・学生会員 7,500円
- ・法人会員 30,000円
- ・賛助会員 2,000円

会費は入会の月より一年間有効です。入会の月より、毎月会報を送付します。賛助会員には「AMDAダイジェスト」をお送りします。

●振込先 郵便振替口座

口座名義 AMDA

口座番号 01250-2-40709

— 今なぜ NGO なのか — アフガニスタン ABC プロジェクト

— AMDA 代表 菅波 茂 —

内乱の続くアフガニスタンからレルニック健太郎氏が報告のため一時帰国した。彼は新進の気性に富む25歳のAMDAのフィールドコーディネーターである。AMDAは半年前からイランとの国境に近いヘラートに事務所を設置して活動している。現在、世界保健機関と組んで小規模融資事業（マイクロクレジット）を実施している。これは事業意欲のある人達に資金を貸して生活再建を支援する事業である。貸付金の回収率が80%を割ると失敗となる難しい事業である。特に内戦とインフレは大敵である。貸付対象事業の選定、必要な知識の教育、貸付事業の育成、不良回収率の回避などソフトの大集積事業である。現在、アフガニスタン国内でマイクロクレジット実施に成功しているのはAMDAだけである。成功した理由はAMDAバングラデッシュ支部からマイクロクレジットの専門家を派遣したからである。マイクロクレジットはバングラデッシュのヤヌース教授によって開始されグラミンバンク（ベンガル語で村の銀行の意味）の名前で世界的に有名である。発展途上国の貧困対策の切り札ともいわれ、貧困対策の世界標準になろうとしている。ヤヌース教授の経済分野でのノーベル賞の受賞が遅すぎるぐらいである。

アフガニスタンは4派の政治勢力が覇を競っている。タリバーン派、ラバニ元大統領派、マリク將軍派そしてイスラム統一党派である。AMDAの基本は積極的中立支援である。即ち、これらの4派すべての支援体制を取ることである。多くの難民と被災民を抱えている国連難民高等弁務官からマイクロクレジットの共同実施依頼がAMDAに来ている。日本政府もアフガニスタンの和平交渉の仲介の労を取ることに意欲的である。AMDAの願いは世界共通である「家族の今日の生活、明日の希望」を実現することである。

AMDAがアフガニスタンにて積極的な「家族の今日の生活、明日の希望」支援活動を実施するためには下記の諸項目の整備が必要である。

- 1) AMDAパキスタンを基軸にバングラデッシュ、ネパール、インドなどの周辺支部を単位とした中近東／中央アジア支援多国籍医師団の設立と運営。
- 2) 国連難民高等弁務官や世界保健機関などとのプロジェクト実施契約推進。
- 3) 日本政府のアフガニスタンの和平交渉の仲介活動との連携。
- 4) パキスタンのペシャワールにロジスティックおよび危機管理センターを設置したアフガニスタン国内活動支援体制の確立。
- 5) タリバーン派、ラバニ元大統領派、マリク將軍派そしてイスラム統一党派の各影響下にある地域での現地事務所の設置とプロジェクトの運営。
- 6) 社会開発プロジェクト実施のためにAMDA参加国から主として女性プロジェクトコーディネーターの派遣。
- 7) 保健医療プロジェクト実施のためにAMDA参加国から医師およびナースの派遣。

8) 日本国内での支援体制の確立。

9) 活動資金の確保。

10) 広報活動体制の確立。

私個人にとってアフガニстанは28年前にカブール、カンダハールそしてヘラートとローカルバスにて旅をした郷愁の国であるが、レルニック健太郎氏の持ち帰った写真や報告ではすべてが変わっている。アフガニстан国内は長期の徹底的な内戦によるないない尽しの状況である。即ち、基本的人権以前の生存権の確保の状況である。「天国と地獄」とはこのことかと思った。

国連-日本政府-AMDAの3者連携がアフガニстанの内戦に疲れた人達の生活再建のお役に立てば望外の喜びである。

会員をはじめとした関係者のかたがたのご理解とご支援を心からお願いしたい。



2) 新しい人のための教育

3) 地域生活環境づくり

4) 成長と評価

5) 成長と評価

AMDA 国際ボランティア研修センターの開所式に参加して

アジアの教育支援の会
代表 森 暢子

1997年8月18日、フィリピン、マニラ市において「AMDA国際ボランティア研修センター」の開所式が行われた。

私たちアジアの教育支援の会（AEA）を中心としたメンバー10名は期待と多くの目的を抱き、8月16日に日本を出発した。

このセンターの設立に際しては菅波代表を中心にいろいろな意見交換がなされ決定された。日本においてもボランティア精神が高まりつつあり、志す人々も多くなってきた。教育の場においてもこれからは「心の時代」と位置付けられ、「ボランティア」の文言がいろいろな場面に取り入れられようとしている。国際的にも「21世紀はボランティアの時代」と言われ、世界共通の価値判断である「平和」を求め、地球規模での人道主義、相互扶助の精神が高まりつつある。これら世界の人々との共存をめざして、これからの若い人たちや指導者、あらゆる場での社会人などにボランティアの体験と研修の場の必要性を感じたのである。

センターの目的としては下記の通りである。

- 1) ボランティアに関わる人材の育成をはかる
- 2) 教育関係者、公務員、学生、その他の人たちのボランティア研修を推進する
- 3) ボランティア・ネットワーキングを進め、コーディネーターおよび指導者の育成をめざす

私たち一行10名の構成は、AEA関係5名、倉敷市玉島南小学校より2名、岡山市高田小学校より3名である。開所式に参加することと、フィリピンで成果をあげているNGOの視察等が主な目的である。

玉島南小学校では事前に「フィリピンの子ども達に鉛筆を贈ろう」という運動を展開されており（24校の賛同校があった）、その願いを伝えるための参加であり、また、高田小学校ではフィリピンネグロス島にあるメグミ小学校と姉妹校縁組を結んでおり、交流のための訪問が目的だった。

鉛筆をはじめ多くの文房具を参加者それぞれのスーツケースに詰め込んで、台風の季節を心配しながらの旅であった。

8月16日(月)

タイ航空でマニラ着、ホテルでJICAの専門家岩永さんとAMDAフィリピンのアイリーンさん(女性)の出迎えを受けた後、リサール国立公園を散策。

いよいよ期待のボランティアセンターの事務所へ移動。ビルの表面はあまり美しいとは言えないが、14階のセンター事務所内は白い壁、白い天井で部屋数も多く、きちんと整備されている。担当のMr. ギルモア(Gilmore Solidum)に日程等の説明を聞くが、なにしろ早口の英語で岩永さんの助けを借りてようやく理解した。事務所のスタッフの方々とウエルカムパーティーで懇談。

8月17日(日)

頼みの岩永さんは菅波代表を空港まで迎えに行くとの事で、私たちだけでバスに乗りマニラ市郊外の「国際地方再開発機構」(IIRR)を訪問した。

広大な土地と庭園の中にボランティアを目指す人、専門家を目指す人たちの研修設備が整っているところである。美しい静かな環境の中で各国の人々が集い、宿泊し、討論、研修し、食事をする施設が点在している。大きな緑の木の木陰、赤、白、ピンクと色とりどりの花が咲いている中を歩きながら私たちもこのような施設を持ちたいものだと思った。この訪問では通訳なしだったが、高田小学校の先生方の英語力に大いに助けられた事を感謝したい。

午後はマカティ地区にて自由行動。

夕食には菅波代表、逢沢一郎衆議院議員一家も加わり話に花が咲いた。

8月18日(月)

一行は二班に別れて行動。

菅波代表、逢沢議員それと私(森)とは在フィリピン日本大使館の湯下大使をお訪ねした。マニラ市内にボランティアセンターを開所することになったこと、フィリピンはNGO活動の先進国であることなど、今回日本政府が審議しているNPO法案の参考になる点が多い。約2時間にわたって熱心に懇談がもたれた。

もう一方のグループはF.O.L.P.M(平和を伝道する女性達の基金の会)を訪れ、その代表のシスター・エバさんのお話とご案内をいただいた。いわゆるスモーキーマウンテンで生活していた人たちが、線路沿いに粗末な住まいを作り多くの人々が寄り合って暮らしている地域である。この人たちのために、シスター・エバさんたちは次の5つの活動を展開している。

- 1) 健康のためのプログラム
- 2) 貧しい人のための病院
- 3) 教育奨学基金
- 4) 地域の生活環境づくり
- 5) 成長と評価組織

多くの子供たちにメンバーは持参した鉛筆を一本ずつ手渡ししながら、いろいろな思いを心にとめたのである。

12時よりいよいよボランティア研修センターの開所式である。マニラ市長を始めフィリピン側の人々と私たちのメンバーに加え、菅波代表、逢沢議員らでリボンカットをし、盛大に開所を祝った。

このセンターには事務室、図書室、研修室、ストックルーム他、キッチン、トイレ等の設備が整えられている。ちなみに住所は以下の通りである。

1104 Moraga Maison Plazamaraga
Binondo Manila PHILIPPINS

このセンターを拠点に、国内はもちろん国際的にも通用する人材育成の仕事が出来るよう努力しなければと心を新たにした。

この開所式後、玉島南小グループは、AEA副代表の石田さんとともにイボダム小学校へ、また高田小学校グループは、ネグロス島のメグミ小学校に向けて出発した。

この頃から台風が近づいたのか雨足が強くなり、風も出て椰子の並木が大きくゆれる中、私たちは厚生省に向かった。女性の大臣でフィリピンの医療、福祉、そして女性のための政策について話し合った。

ますます風雨の強くなった中、マラカニヤン宮殿にラモス大統領夫人を訪ねた。ライトグリーンのスーツに身をかためた夫人は、大変親しみ易くご自分のかかわっているボランティア活動について話された。特に教育については最大の課題で、子供たちを健康に育て、教育を身につけさせるためにはどうしたら良いかについて大きな関心を持たれているようだった。

8月19日(火)

昨夜からの雨でマニラ市内では殆どの機能がストップ状態で、私たちのセレドニヤ小学校訪問、他のNGOの視察、スモークーマウンテンの視察などすべて出来なくなり、大変残念だった。台風のためマニラ市周辺では道路や家屋への浸水、車は流され、多くの被害が出た模様である。

8月20日(水)

午前中PRRM(地方農村再建設運動)の事務所を訪問し、Dr.アディーガリアードさんよりその活動を聞き、意見交換をした。

このNGOはフィリピンでは一番古く、その活動の中から前厚生大臣のフラビエール上院議員を出し、NGOと政府が連携し有能な人材を育成し、活動にあたっているとのことである。

途中で別行動をとったが、玉島南小、高田小学校の先生方ともマニラ空港で無事に出会う事が出来、それぞれの成果を話し合った。

20日には続いて、山陽学園国際文化化学部の学生たちが、牧野助教授の引率でマニラ入りをした。このツアーの成果、感想、反省点など後程まとめたいと思っている。

最初の試みとして「ボランティア研修センター」がNGO活動の盛んなフィリピンで始まったことになる。今後は、スタディツアーの内容の充実、もっと専門的な学習をしたい人々のためのコース内容など、多くの課題を抱えていると思う。皆さんで力を合わせ一層の充実をはかって行きたいと思う。



フィリピン厚生大臣を囲んで



左から、センターコーディネーター ギルモアさん、センター所長 ケネスさん
JICA 専門家 岩永さん、AEA 中村さん

インターン活動について

調整員 西野 裕子

昨年7月より、AMDAからのインターンとしてJENの旧ユーゴスラビアでの援助活動に携わってきたが、6月中旬の帰国をむかえるにあたり、約11ヵ月間の活動を報告書にまとめることにした。詳細は感想の欄にゆずるが、この1年間は本当に貴重な体験をさせてもらうことができ、このような機会を与えてくれたAMDA、JENの皆様には心から感謝申しあげたい。

活 動

1) ザグレブオフィスにて

昨年7月から今年1月末まではザグレブオフィスで様々な業務を手伝わせてもらった。主な仕事は立正佼成会から送られる愛のポシェット配布プロジェクト、日本からの援助物資配布である。このほかにUNHCRから取得するIDカード申請手続き、UNやSFORの飛行機予約、上記他の援助団体との連絡業務で必要な書類作成、レポートの翻訳を行った。

2) スラボンスキブロードオフィスにて

97年2月より6月まで、渡辺はなこさんの後を引き継ぎ、スラボンスキブロードにて家庭訪問プロジェクトを担当した。と同時にこの期間UNHCR Zagrebの倉庫に残っていた援助物資配布を継続していった。

スラボンスキブロードでは、責任者としてプロジェクト運営、監督に携わる業務を行った。スタッフのミーティング日数、レポート提出に関するルールといった細かな点の変更を除いてはプロジェクト自体は以前と同様の状態を保ち、ソーシャルワーカーたちの運営に大幅に任せることにした。私の仕事としては毎週のレポートに目を通したり、ともに家庭訪問に行きJENスタッフの働きぶりや受益者の生活状況を見たりした他、家庭訪問のための食料、おむつ、医薬品購入にともなう仕事、会計管理が挙げられる。

この様なプロジェクト運営と平行し、プロジェクト終了に向けての準備も行った。終了時期、終了方法などの詳細は未決定であるが、このために地元の援助団体や関連機関に訪問して活動を把握する、JENの受益者の英語版リスト作成をしていた。事務所移転のために私の帰国以前に計画通り終了できなかったため、これは新任者に継続予定である。

感 想

最初に述べたように、この1年間は様々な意味で貴重なものであった。1年間すべてが万

事順調というわけではなかったが、援助団体での仕事を実際に目にできたこと、このような仕事上問われるものを知りえたこと、また難民、被災民の抱える問題を身近に見聞きできたことは、今後の私の日々の生活の中で大きな部分として残るはずである。

当初は、私の想像していた援助団体のコーディネーターの仕事とザグレブオフィスでの仕事とがあまりにもかけ離れていたものであったため、とまどいや不満があった。しかしポシェット配布に携わるようになってからは、コーディネーターが黒子のように土台となっているからこそ援助活動が可能となるという木山さんの言葉が身に染みて納得でき、またその言葉がこの1年間絶えず支えとなっていたのである。

日本で説明を受けた派遣地と異なりザグレブ本部で働くことになったことは、疑問が多々あったが、今にして思えばかえって幸いなことであった。ザグレブオフィスでは本部という性質上、各フィールドオフィスのプロジェクトの様子を若干であっても知る機会は多分にあり、本部の様子を知っていることはのちにスラボンスキプロッドに行ってからも多いに役立ったと思う。ポシェット配布を担当したことでプロジェクトにも参加でき、援助物資配布に際してはLogisticsの面を多少なりとも引受けたことになる。

また最も幸いだったのは、その後スラボンスキプロッドの仕事を任されたことであるが、これもザグレブオフィスでの経験があったからこそなんとか無事にこなすことができたはずである。スラボンスキプロッドでは責任者として仕事をしたわけだが、立場が変わったことで上司が他のスタッフに望む働き方を知る機会を得、ザグレブオフィスでのインターンとしての私の仕事を自分なりに顧みることもできた。

もし後にインターンを受け入れるのであれば、派遣されたインターンの希望、能力や滞在時期、プロジェクトの状況にもよるだろうが、初めの数ヵ月をザグレブ本部で、その後フィールドオフィスでの仕事という順序が望ましいのではないかと思う。

今後インターンがJEN派遣されるか否かはわからないが、私の1年間は非常に有意義のものであったし、また、JENに少しでも貢献できたことを願う。



1997年6月、スラボンスキプロットのスタッフたちと

援助物資

調整員 西野 裕子

1 概略

昨年日本からの旧ユーゴスラビア向け援助物資は、9月下旬にイタリアのトリエステに到着し、日本通運によりザグレブのUNHCR倉庫に運ばれた。

あらかじめ配布先が決定しているものもあったが、未決定の物資は各オフィスからの希望を出してもらった上で決定した。物資の配布、使用方法はプロジェクト内容や地域のニーズに合わせて各JENオフィスに考慮してもらったが、JENのプロジェクトでの使用、近隣の難民センター、他の援助団体や関連団体／施設への寄贈に大別できる。

最終的には人々が援助物資に頼らず生活できる状況に向かうべくJENが活動しているのだが、難民、被災民の生活状況は一般的にまだまだ困難である。昨年届いた物資同様、今年日本からの援助品が送られれば配布先は多分にあり、JENと受益者にとり喜ばしいことである。

2 配布先

援助物資の配布先については別紙1の表を参照。

3 現地での保管、輸送

1) 保管

UNHCR Zagrebの倉庫にポシェットとともに保管を依頼し許可を得た。イタリア、クロアチア間の国境でトラック輸送が円滑にいくよう、UNHCRより積み荷が援助物資である証明書を作成してもらい、イタリアの日本通運支店に送った。UNHCRの倉庫から物資を受け取るにあたっては、毎回、1日前までにLoading Instructionを作成してもらうよう、受け取る物品名、数量、配布先、受け取り日時、輸送手段を明記したファックスをUNHCR Logisticsに送った。

2) 輸送

下記以外はJENの車で輸送した。車の燃料代を節約するため、物資輸送のみのために配布先のオフィスに向かう、あるいはザグレブまで出向いてもらうことを極力避けた。下記の物資は大きさ、量の面から他団体に一括輸送してもらう方が良いと判断したものである。

- ①シボボオフィス向け／セーター17箱、ミシン1パレット、おむつ13箱

SFORにより陸路で輸送した。

- ②ゴラジュデオフィス向け／タオル6箱

SFORによりザグレブからサラエボまで空輸をしてもらい、サラエボでゴラジュデスタッフが受け取った。

4 UNHCRについて

UNHCR Zagrebではロジスティックスは大幅に縮小されたようで、以前には少なくとも3人はいた担当者が現在では1人のみである。この1名もロジスティックスの業務を引き継いでいるものの、プログラムで働いている。現在UNHCR Zagrebで所有されているトラックは東スラボニアへの物資運搬にのみ使用されている。UNHCRにボスニアへの輸送を依頼するのはほぼ不可能であり、たとえ東スラボニアへ運搬を依頼するにしても1トラック350ドイツマルク請求される。

またUNHCRは今年1月より赤十字の倉庫を借りており、倉庫での様々な業務は赤十字のスタッフが行っている。倉庫は今年も使用できると思うが、赤十字、UNHCRの物資の都合によっては断られる可能性もありうるので、早めに使用願いを出しておいたほうが無難である。

5 各オフィスからのリクエスト

今年度、各JENオフィスの活動地域でニーズが高いと思われるもの、あるいはプロジェクトで必要な品目を挙げてもらった。これらの希望品目が必ず送られてくるとは限らないこと、例え来るとしてもポシェットとともに今年夏になることは各オフィスの了解済みである。1997年5月時点の希望のため、若干の変更がありうるが、今年日本で援助物資を集める際に参考になれば幸いである。このリストは別紙2に添付した。

6 今後の援助物資輸送を計画する上での改善点、注意点

1) 箱、あるいはパレットの外側に物品名、数量、重さを日本語のみでなく英語でも明記する。

→UNHCRや他団体の倉庫等での保管やこのような場所からの輸送を行う時、相手側による書類作成もろもろの手続きがより楽である。これはUNHCR Logistic Officerより指摘を受けた。

→ローカルスタッフのみによる輸送や在庫確認の際、英語表示が必要である。

2) 日本発送時に配布先が決定している物品、特に重量の大きいものは可能であれば配布先オフィス近くにあるUNHCR倉庫に直接輸送できればありがたい。特に援助物資がポシェットとともに届くのであれば、各地に直接輸送する手続きをポシェット、援助物資一括して行えるはずである。

→ザグレブから各オフィスにJENの車で輸送する時間、コストが削減できる。

→重量の大きい物、個別では少量でも配布数が多い物品の箱はJENの車では輸送困難な場合がある。

3) 日本側、ザグレブオフィス側に共通の物資リストを作成し、双方で持つ。リストには、物資発送前に可能な限り物品名、箱番号、梱包状況、箱数、箱の個別サイズ、個別重量の事項を記入する。なお、案として理想的なリストを別表3に記入例とともに添付した。

→お互いが受け取った物資品目、数量などの確認が容易である。

→現地で他団体に輸送を依頼する際、梱包状況、箱の個別の大きさと重量が必要である。

4) 物資の対象年齢や使用方法などを明確にする

→去年届いたおもむつが大人用との連絡を受けたが実際には乳幼児用で、スラボンスキブロードからザグレブへ送り返さなくてはならなかった。

5) 物資は使用方法が比較的簡単、単純なものがよい。

→日本語での説明書きがあっても受益者は読めない。また場合によってはJENスタッフがすべての人にいちいち使用方法を説明する余裕がない。

6) 非消耗品については新品でなくとも、まだ使用できる中古品でも差し支えないが、消耗品については新品、それに近いものが望ましい。

→昨年送られた学用品の中には使用に値しないクレパス、絵の具が混じっており、受け取る側の気持ちを憂慮する報告がシボボオフィスより寄せられている。

7) 衣服類はなるべく大きいサイズが良い。

→子供、大人共こちらの人は体格が大きい。

8) 日本発送から旧ユーゴ到着までの輸送中、物資の破損がないよう梱包する。昨年届いた物資に問題は全くなかったが、例えば昨年RKKから送られたセーターの箱には防虫剤が入っており、このような細かな気づかいはJEN、受益者にとって大変有難いものである。

9) 物資がどのようにプロジェクトなどに使用されているかを写真撮影して、可能な限り早く物資寄贈者、あるいはAMDA、RKKにお礼状とともに送る。

→送った物資が現地でどのように使われているかをこちらが報告するべきである。

→寄贈者にとり、寄付した物の使用状況が具体的にわかるのは喜ばしいことである。



1996年11月、ブコバル（クロアチア東部）で、立正佼成会からのボランティアによる愛のポシエット配布



ポシエット配布後、子どもたちと

別紙1 援助物資配布先

ITEM		NO OF CRT	PIECE	ZAGREB	RIJEKA	SL.BROD	VUDOVAL	SIPOVO	GORAZDE	BELGRADE
1	足踏みミシン	1	10					1		
2	車椅子	5	5			5				
	文房具	4						29		
3	落書き帳		29							11
4	クレヨン		11							
5	折り紙		5	2				3		
6	算数セット		13	2				2		9
7	ノート		49	49						
8	折り紙の本		9					9		
9	ぬいぐるみ		15							15
10	絵本		24					3		21
11	布、洋裁セット	2			2					
12	乳幼児服、おむつ	20								7
13	タオル	19	1870		5	5			6	3
14	レース糸	7	1792		7					
15	毛糸	17	1353		17	31	35	39		
16	セーター	105	1717							
17	スニーカー	2	47							2
18	スキーウェア	8	69							8

* 各オプイスに割り振った箱数を表示。ただし物資3～10は個数を表示。

別紙3 援助物資リスト

品目	数量	箱数	梱包状況	箱番号	個別サイズ	個別重量	寄贈者	配布先	備考
ITEM	QUANTITY	NO OF CRT	PACKING	CARTON NO	DIMENSION	WEIGHT	DONOR	ALLOCATION	NOTE
1 足踏みミシン	10	1	木枠	1		400kg		Banja Luka	
2 布オムツ大人用	4290	11	ダンボール	D/1-11	45x50x54	25kg		Sl. Brod	
3 レース糸		7	ダンボール	1/24-7/24	64x42x64	18.6kg	オリンパス		詳細別紙1参照

別紙2 希望物資リスト

オフィス名	希望物資	個数	記	
リエカ	絵描き道具		子供用	
	裁縫道具			
	糸			
	糸			
	下着			
	スポーツシューズ			
スラボンスキ	冬用衣服		以下すべて65才	
ブロード	水用タンク	13	以上の人を対象	
	ポータブルトイレ	5		
	毛布	50		
	ろうそく	150		
	キャンピング用椅子	50	家具がない人のため	
	キャンピング用テーブル	10	家具がない人のため	
	下着			
	ゴラジュデ	布		高校のミシンクラス用
		糸		同上
		英語の本、童話		初歩レベル
夏、冬用衣服			3~18才の孤児用	
夏、冬用靴			同上	
文房具（ノート、鉛筆類）			同上	
おもちゃ			同上	
誕生日プレゼント		51	同上	
たて笛（ソプラノ、アルト）			音楽学校用	
カスタネット			同上	
アコーディオン			同上	
楽譜			同上	
卓球台、卓球セット			スポーツセンター	
ボール（サッカー、バレーハンドボール）			同上	
スケッチブック		200	小学校、特別学級用	
色紙		100	同上	
セロテープ		50	同上	
粘土		20	同上	
はさみ		30	同上	
人形劇用人形（手にかぶせる）			同上	
楽器（ドラム、シンバル）			同上	
発泡スチロール		10	同上	
ボール（サッカー、バレー等）		20	同上	
フェルトペン		100	同上	
太字フェルトペン		10	同上	
空手着、空手練習用具			空手クラブ用。AMDA HQにリクエスト済み。	
ピアノ		1	小学校用。音楽のクラス。	
地球儀		1	小学校用。地理のクラス。	
世界地図（地形図）		2	同上	
各地域の地形図ヨーロッパ、		各2	同上	
アジア、アフリカ、アメリカ			同上	
地図（アメリカ）		2	同上	
地図（ボスニアヘルツェゴビナ）		5	同上	
物理実験用器具		小学校用。物理のクラス。		
人体模型（各部分取り外し可能なもの）	2	小学校用。生物のクラス。		
人体模型（髄骨）	2	同上		
虫めがね	2	同上		
解剖用具	2	同上		
化学用実験器具		小学校用。化学のクラス。		

戦場から考える

平和へのともじび 戦後52年

「ふいふいともなく悲しい現実、ただただ圧倒されるばかりでした」
倉敷市西坂の会社員内山

かやさん(三)は昨年三月、内戦による混乱が続く旧ユーゴスラビア各地を訪問した。アジア医師連絡協議会(AMDA)本部岡山市楠津が企画した「スタディツアー」の一行として。

爆風で崩れた教会、銃弾で無数の穴があいた家屋、戦火を避けて身を寄せ合うお年寄り、子供…
日本では風化しつつある戦争の生々しい「現実」がそこにあった。帰国後、内山さんは驚きと恐怖を率直にレポートに書き留めた。

「平和に慣れきっていた私には信じられない光景で、世界各地の紛争・災害地域の状況に肌で感じ、自分たち何ができるかを考えて

の思いを新たにしました」
スタディツアー

旧ユーゴは一九九一年以降、民族共存のバランスが崩れ、内戦がはじまった。中東もボスニア・ヘルツェゴビナの隣人、友人同士が民族の違いを理由に殺し合う事態にエスカレート、冷戦終結後の世界中に衝撃を与えた。九五年末、武力紛争は収まったが、内戦で約二十万人の死者、三百万人も難民を生み出した。

AMDAは、NGO七団体でつくる日本緊急救援ネットワーク(JEN)の一員として、九四年から診療所や薬局の開設など、和平再建に協力している。「スタディツアー」は、

「戦争体験を共有することで恒久的な平和の尊厳に気付くためのAMDA事務局の林信秀さん(三)は、ツアーの教育効果を語る。

「歴きよ化した街並みにしほらへ動けなかった」
「映像で感じることが

高まる若者の関心
戦後五十二年。日本では部が昨年十二月、ボスニア支援のためチャリティ

方町六条院中)の吹奏楽
みでもある。

悲惨さ身をもって知る

もらおう企画。日本各地の市民や学生を現地へ派遣しており、旧ユーゴに対しては九四年から十数回、計三百人以上が参加した。

日本でのギャップ

高校生や大学生の若い世代が、ツアー参加者の大半を占める。約一週間、難民キャンプや学校、病院などを訪問し、AMDAの救援活動も視察する。参加者はテレビでは知っていても、直接目に飛び込んでくる「戦場」の悲惨さに強く心を揺さぶられるという。

「破壊された街並みや生活ぶりを目の当たりにして、参加者の顔つきが変わ

旧ユーゴを訪れ学習

「戦争体験を共有することで恒久的な平和の尊厳に気付くためのAMDA事務局の林信秀さん(三)は、ツアーの教育効果

「歴きよ化した街並みにしほらへ動けなかった」
「映像で感じることが

方町六条院中)の吹奏楽
みでもある。



かつての激戦地に立つ幼稚園を慰問するAMDAスタディツアーの参加者ら(平成8年3月、クロアチア)

「コンサートを開き、空手が盛んな現地へ道着約五百着を送った。世界の平和に目を向ける動きが、若い世代に芽生えつつある。

「グローバル化が進む中、世界平和の実現へ共通の価値観を持つことが必要。二十一世紀を担う若者が、世界のどこかで続く紛争に関心を持ってほしい」。AMDAの菅波茂代表は期待を込めて

第3回中国雲南省歯科プロジェクト報告書

AMDA 歯科（治療）プロジェクト委員長
島津 渡

今回は第3回AMDA中国雲南省歯科プロジェクトとして、1997年8月15日～8月22日までの日程で行ってきました。余楽村では、17日、18日、19日の3日間治療を行いました。歯科プロジェクトを推進するにあたって、広東省白雲区衛生局、白雲区人民政府、白雲区人民病院の皆様の協力、また余楽村人民及び各関係筋に多大な援助をいただき感謝いたします。歯科プロジェクトは人民参加で地域に根付き、村民が受け入れていただいでこそ、成り立つものと思っています。今回は村民参加型でまずまずの成功と思っています。

1. 日程

8月15日～8月22日

2. 構成メンバー

- 笹山 徳治 (調整員・中国プロジェクト委員長 47才)
- 島津 渡 (歯科医師・中国歯科プロジェクト委員長 46才)
- 中塚 項子 (歯科医師・勤務医 26才)
- 角南 次郎 (歯科医師・岡山大学歯学部第二口腔外科講師 40才)
- 安田 朝里 (医学生・岡山大学歯学部歯学科在学中 22才)
- 石川 浩三 (高校生・文部省交渉政策研究交渉準備委員 17才)
- 立石 弥生 (高校生・手話サークル"チャイルド"生徒会役員 17才)
- 張 友梅 (歯科医師・広東省白雲区人民病院口腔外科 36才)
- 欧 陽英 (看護婦・広東省白雲区人民病院内科)

3. 目的

- 1 余楽村余楽小学生の歯科検診と歯科治療、公衆歯科衛生
- 2 余楽村人民の歯科治療と公衆歯科衛生

4. 結果報告

- 1 余楽村余楽小学生の歯科検診

〈場所〉余楽小学校教室

〈日時〉1997年8月17日 午後2時半より日没まで

〈人数〉131名中60名検診 う蝕歯数596本

これは1人あたり10本の虫歯を持っていることになる。日没で終了。17日は日曜日で停電でした。教室には電燈もなかった。

2 余楽村人民の歯科治療結果

	人数(名)	民族	抜歯した本数(本)	治療した本数(本)	年齢層(才)
18日	62	納西	105	12(AF充填・麻抜)	7~70
18日	7	納西			6~20
19日	57	納西	127	44(AF充填・麻抜)	6~68
19日	32	納西			7~66
合計	158	納西	232	56	6~70

抜歯担当医 (1班)	Dr. 島津	Dr. 中塚	立石
抜歯担当医 (2班)	Dr. 角南	安田	
治療と抜歯担当医 (3班)	Dr. 張	Ns. 欧	

余楽村の人達は、今だ歯科医にかかった事がないのかと思うほど、歯科医師が来余するのを恋人を待つかのごとく長く長く待っている様子でした。治療班と抜歯班に分かれて、18日午後3時より治療開始です。50才以上の村民の中には、名前の書けない人もいます。学校長、又は村長にお願いし、代筆してもらいました。子供達の中には新1年生もいた様に思います。治療、抜歯にも限度がありますヨ。

5. 今後の歯科活動

1 歯科巡回診療事業(移動歯科診療車の必要性について)

雲南省21民族1200万の為に、移動式の診療車が必要であると、ここ2~3カ月間考えています。現在は、日本より在宅用治療機器を携帯して麗江まで行っています。帰国するとオーバーホールに出すありさまです。移動診療車であれば

- イ. 村から村へ素早く移動が出来る。
- ロ. 電力を自家発電し、かつレントゲンも車中に設置出来る。
- ハ. 診療設備が完璧なものになる。
- ニ. 緊急救援プロジェクトにも使用可能である。
- ホ. 携帯用治療機器も同時に使用できる。

2 チーム構成は 日本側 (AMDAメンバー)、広東省白雲区人民病院衛生局側、雲南省側との3合同チームとしたい。

3 事業内容

- 1) 食習慣 口腔衛生の予防教育
- 2) 母子保健と公衆歯科衛生
- 3) Perioと歯間周囲炎等の予防と治療
- 4) 歯科衛生士の研修
- 5) Cariesの治療
- 6) その他

4 担当は歯科プロジェクトメンバー、プロジェクト推進局 (本部)、中国プロジェクト員

5 財源は一般募金、又は寄附その他でお願いしたい。

中国雲南省歯科巡回／ヘルスポストプロジェクトの推進事業

今回の治療結果より考えまして、早急に歯科巡回、又ヘルスポスト設置運営がいかに重要か？ 重大な事業であるか思い知らされた気がしました。

〈内容〉

1 中国雲南省歯科衛生士育成交流事業

雲南省昆明又は麗江にある衛生学校卒業生の岡山県卒後研修及び交流を推進し、帰国後はAMDA関連プロジェクトに勤務する事。

2 中国雲南省AMDA 歯科ヘルスポスト設置運営事業

イ. 歯科衛生士育成を麗江で目指す。

ロ. 設置場所については雲南省衛生庁人民政府等関連諸機関と協議、決定し、少数民族の村々に設置したい。

ハ. 業務内容としては、歯科衛生士又は、保健婦等により

- ・ 食習慣、口腔清掃、手洗い、口腔衛生予防教育
- ・ Perio 歯間周囲炎等の予防と治療
- ・ 歯科巡回治療計画運営、身体障害者などの治療
- ・ その他

この2つの事業計画を推進出来ますよう、諸関係の皆様方にご協力をお願い致します。

中国雲南省歯科治療体験報告

歯科医師 中塚 項子

今回、AMDAでの歯科医療チームの一員として、中国雲南省、麗江で活動を行い、その報告を行う。

私は今年の3月に研修医過程を終え、4月から岡山の島津先生のもとで歯科医として働いている。そこで、初めてAMDAのことを知ったわけだが、まさか自分がその一員としてこのような活動を行うことになるとは正直言って思いもよらなかった。診療所では、外来の患者さんを診るだけでなく、依頼により往診での治療も行っている。そういう面では、診療所以外で治療を行うということに違和感はあまりないだろうと予想していた。それにしても、この未熟者に一体何ができるのであろうか。行ってもそんな大切な場所で足を引っ張ったりするだけではないかという不安感で本当に行くまでは悩んだ日が多かった。どんどん日は経ち、慌ただしく準備をし、行くからには何か役に立てればいいが…という気持ちと、自分のできる範囲で精一杯やってみようというチャレンジ精神と、中国って一体どんな所なんだろうという好奇心を抱きながら、この活動が始まる日を迎えた。

8月15日(第1日目)は、関西空港から広州までの移動。中国まで3時間少しで着くんだという早さの驚きと、現地の蒸し暑さ、想像以上に大きな都市であることに驚いた。AMDA広州のスタッフと顔合わせをし、いよいよ始まったぞという実感が湧くと同時に、言葉も生活習慣、文化も違う所で本当にうまく活動ができるのかという不安感で一杯であった。

8月16日(第2日目)は、中山記念堂見学の後、白雲区人民病院を視察できるという事で、日本とどんな風な違いがあるのかと少し楽しみであった。大きな病院である。中は思ったよりも暗く、衛生面ではあまり完璧ではなさそうだというのが本音である。思いがけず歯科の診察室を見ることができた。ユニット(治療用椅子)5台、Dr6人。ユニットを始め機械は相当古い物と見られる。日本でお馴染み唾液や水を吸引する装備、うがいをする装備が付いてあるにもかかわらず、そこは全く使用されていない。ユニットの横にバケツを置いてあり、少し削ってはそこに吐くという具合で治療をすすめていた。衛生士さん、助手さんの姿はそこには見当たらなかった。歯科レベルは、日本よりも低いということであるが、虫歯の治療、義歯の作成という基本的な治療を行っているらしい。食事の関係上最近では子供達のう蝕が増加しているということだ。また、手術は行いたいのが機械、技術の都合により今は無理だということを知り、大きな病院であるのにやりたいのにできないというのが、本当に残念だなあと思った。ここでは、後より活動を共にする女性歯科医師張友梅先生と対面、言葉は全く通

じないが、同じ女性の歯科医という事でか、一緒に活動ができるというのが楽しみだった。広州から飛行機で1時間少々のある雲南省の首都昆明へ移動。海拔1900mである為か広州よりもずっと空気が澄んでいるような感じを受ける。ここもまた栄えた都市という印象。

8月17日(第3日目)、早朝より昆明から約1時間の所にある麗江までの移動と活動開始。出発から3日目にしてやっと本当の目的地、被災地である麗江に到着。飛行機から降りた瞬間、空は明るく風が気持ちいい、空気がきれい、のどかという感じを受ける。ここは海拔2000m以上の高原である。空港では村長さんをはじめ、村の代行者ナシ族の民族衣装を着た女性、そして子供達が迎えてくれた。さあ、いよいよだという気の引き締まる思いがする。昼食をとり少々休憩し、バスで更に40分揺られながら余楽小学校へと向かう。バスから見る景色は今までと全く異なり、日干しのレンガ造りの家や石畳の家が多く、当たり前のように牛や豚、にわとりが道路を歩いており辺りはとうもろこし畑があり、ひまわりが咲き、夏であるにも関わらず、菜の花畑がちらほらとし、まるで絵本の挿し絵のような感じがし、時が止まっているような感じすらする程であった。余楽小学校に着き、待っていましたと言わんばかりに子供達が列を作ってくれて私達を温かく笑顔で迎えてくれた。何だか初めて来た私にもこんな態度で迎えてくれて、本当に感動してしまった。どの子供達もとても目が澄んでいて、とても可愛い。被災から約1年半経ったというのものもあるかもしれないが、ふさぎ込んでいるだとか、元気がないという様子は全くなく、子供らしい、無邪気な表情で元気一杯である。さあ、治療を始めるという時が来たのだったがあいにく日曜日という事で電気が供給されておらず、急遽子供達の検診と口腔内写真の撮影を行うことになった。それにしても部屋の中にもものすごい数のハエがいる。話は聞いていたにも関わらず、防虫スプレーを持参するのを忘れてしまっていた。せっかく滅菌してある器具も台無しである。明日は防虫スプレーを用意しなければということに…。口腔内の状況は、ブラッシングの習慣がない割にはひどい蝕というよりも治療可能な蝕が多い。乳歯はともかく永久歯の蝕罹患率は100%である。とりあえず、乳歯よりも永久歯の蝕を優先的に治療しなければいけないという思いはどのDrも同感していた。約60名の検診を終えたところで終了となる。スムーズに進められたのも、張先生、看護婦の歐陽英さん、AMDA中国のスタッフ達のお陰だったと思う。

8月18日(第4日目)は、余楽小学校の落成式と医療活動。朝食後、余楽小学校へ向かう。今日は小学校の落成式。歯科医療チームの私達もその式典の準備を手伝いながら、歯科治療の用意を進める。落成式では、我々のチームからは歯科大生である安田朝里さんの作成したブラッシングの方法等のポスターと、歯ブラシを贈呈した。落成式が無事に終了し、いよいよ本格的な治療開始へ。抜歯班2、治療班1、計3班に分かれ、処置に入った。今日は一般の大人の患者さんも交えて行った。口腔内の状態はひどく、全体的に歯石が付着しており、蝕になっている歯は、よくここまで放置しておけたなあ随分痛かっただろうに…というような歯ばかりである。そして歯科治療を受けるのは初めてだという人がほとんどで、治療を

受けたくても受けられないというここでの現実の状況を改めて知り、ショックを受けた。片や日本では歯科医師過剰になっているのに…。私は主に抜歯班で抜歯を行ったり補助についたりしていたのだが、抜歯時は悪戦苦闘する場面も多く、新米ぶりを発揮してしまった。まだまだ未熟だということを思い知らされると同時に、いろいろな面で今後の大きな目標や課題が見えたのが実際であった。そして今日気が付いたことは、この余楽の村にもアイスクリームやスナック菓子等があるんだということである。というのも治療を待つ子供達の中に何人か間食をしている子供達を見かけたのだ。こうしてブラッシングの習慣がないのに、人工甘味料たっぷりの菓子類を食べると、なるほどあつという間にう蝕になる筈である。しかし、子供達も本当に我慢強く治療を受けたなというのが実感である。日本で一般の子供達の歯科に対する意識はというと、歯医者さん・歯の治療=痛い=怖いというイメージがあると思うのだが、ここの村の子供達はそういう潜在意識がない為かきちんと口を開け、麻酔時にもよく頑張り、終わるとにこにこしている子さえいて少し驚いた。「口を開けて」という言葉こそ中国語で言えたのだが、あとの言葉が通じないのが本当に残念であった。今、声をかけてあげたい、こういうことを伝えたいということが山ほどあるのにそれを中国語で表現ができないもどかしさで一杯だった。こうして治療2日目もあつという間に終わった。昨日と同様、使用した器具は持ち帰りホテルで洗った後消毒をし、次の日に備えた。

8月19日(第5日目)、歯科医療活動3日目、最終日。

早朝、歯科治療チームのうち高校生2名が学校の都合上帰国しなければいけない為、ホテルより見送る。疲れていても、疲れた顔1つせず、本当によく手伝い、自分達の活動を行っていた。本当に助かったし、感謝すると同時にちょっと寂しい。歯科治療は今日が最終日である。実はこの日、私は用意する際、重大な失敗をしてしまった。というのも治療を行う機械の配線を間違えてつないでしまったのだ。中国と日本では電圧が違うため変圧器を通して配線しなければいけないのに直接コンセントをつないでしまったのだ。途端に機械からモワモワーっと煙が出てきた。すぐに電源を切りコンセントを抜いたが煙が止まらない。泣きたい気分である。最終日とはいえ、やっと午前から治療が出来る日なのに、これがなければ治療ができないではないか。何てことを私はしてしまったのだろうという情けなさ、今日はどうなってしまうのかという不安でどうしようもない。他のできる準備をまずしなければと、用意をしているうちに何とか煙だけは止まった。島津先生に事情を説明し、先生が配線を整え、電源を入れてみる。動いた!! 何とか壊れてないかもしれない、やった!! よかった!! 今日無事に治療が行える!!と思った瞬間に涙がこみ上げてしまった。という騒動がありつつ、今日は午前中から夕方近くまで通して治療をすることができた。それでもまだまだ、診て欲しいという患者さんが後を経たなかったようだ。時間の都合上、もう終わりになりますよと現地の人々の説明により治療の活動が終了したが、診て欲しい人がいるのに診れないということで、とても心残りだった。そしてアフターケアが直接出来ないことや、治療の続きができないことが残念であった。その後昼食をとり退散。この日の夜、島津先生

は疲労と食あたりでダウン。ホテルで点滴まですることに…。

8月20日(第6日目)、朝早く集合し、麗江を後にし昆明、昆明から広州へ飛行機で移動。

8月21日(第7日目)、昼食をとった後もうすぐ開院予定の広州市白雲区紅会医院を視察。その後講演会を行い、歯科医療チームでは、島津先生による、今回のプロジェクトの報告、角南先生による日本での歯科医師になる為の過程等の説明、質疑応答が行われた。

8月22日(第8日目)、早朝集合、広州から関西空港まで帰国、無事に機械も持ち帰り、閑空にて一団解散となる。初対面の人がほとんどで、7泊8日の団体での活動であったが別れる際には本当に名残惜しく、寂しい気持ちになった。

最後に今回の活動を通して感想を述べたい。

この活動に参加させてもらいたくさんのことを学ぶことができたと思う。歯科医師としての自覚はもちろんのこと、医療とは…ということに関していろいろと考えさせられる面がたくさんあった。こういうことを考える機会に恵まれただけでも私にとって大変プラスになったと思う。そして、医療を通じて、たくさんの素晴らしい出会いに巡り会えた。これはもう、何にも代え難い私の心の財産といえるだろう。今回、失敗や、皆様に迷惑をかけてしまうことが多々あったにもかかわらず、歯科治療チームの人達はもちろんのこと、同行した他のスタッフの方、中国の方までが本当に親身になって助けてくれ、感謝の気持ちで一杯である。また中国に行くまでの準備やいろいろなアドバイスをくれたスタッフにも本当にお礼を言わなければならない。そしてみんな体調を少しずつ壊しながらも無事に活動を終えることができてよかったと思う。

この経験を少しでもこれから生かせたらいいなあと思うし、知らず知らずのうちに必ず生かされるような気がする…と信じている。

本当に皆様ありがとうございました。



■ AMDA -カンボジア クリニック (ACC) 報告

AMDA - Cambodia Dr.Sieng Rithy

翻訳 荻野千明

97年7月にACCを開院して以来、身体障害者や、プノンペン近郊の村々の貧困者層への保健医療活動を充実させるため、多忙な活動を続けている。

このACCには3人の医師と、2人の看護婦がおり、月曜日から土曜日の午前まで、1日8時間半開院し、診察を行っている。当初、診察に訪れる患者は、1日平均9名程度であったが、日に日に患者数は増加し、現在では内科、外科診療等、1日15～30名の患者数を抱えている。

ACCを訪れる大多数の患者は、身体障害者や貧しい人々であり、ACCの方針として無料診察をおこなっている。ただし、1部の人々に対しては低料金での診察をおこなっている。

現在、ACC周辺の人々への保健衛生教育と栄養摂取のプログラムを計画中である。私たちはこれらの活動を通して、ナショナルプログラムであるエイズ、結核、保健衛生学を保健省と共同研究していくつもりである。

これらの活動の他にも、ACCでは、貧困者層の環境から発生するいくつかの病気に対する研究、特に精神病治療法や生活衛生学の研究もプログラミングしている。

またACCでは、本来の使命であるカンボジアで起こる全ての緊急事態に対応する準備ができています。実際、カンボジアの地方を脅かしている災害、洪水を解決すべく方法も模索している。

将来はAMDA -カンボジアのスタッフの質の向上のために、日本において保健医療の研修、人材育成に関する研修ができることを望んでいる。

最後にAMDA -カンボジアのスタッフ全員は、日本のみなさんからのカンボジアでのプロジェクトに対する暖かいご支援にとっても感謝しております。この誌面をお借りして御礼申し上げます。

今後もAMDA -インターナショナルの方針である "Better Quality of Life for a Better Future" にのっとりベストを尽くすつもりです。

ACC 正面玄関



ACC内部



診療風景



診療風景



ウガンダ

岡山県議会議員 橘 民義 (たちばな たみよし)

夏、一番暑い時にさらに暑い所へ行った。アフリカはジブチ共和国。その国は世界で一番暑い国と言われている。砂漠を突っ切って、ソマリア難民のキャンプを訪れた。(先月号)そして次に訪れた国はウガンダで、首都カンパラから1時間30分、4WDで走ってゴーチという小さな村に入った。そこには昨年アムダが建てた診療所があり、その地域にしてみればそれ以来やっと医療が始まったと言っても過言ではない。

ウガンダではマンボさんという地球物理学の博士がアムダのスタッフとして大活躍しているが、そのマンボさんと一緒にこのゴーチの診療所と、そこで医療を受けた人たちの家を訪問した。子宮筋腫の手術を受けた母親、流産した女性、骨の病気で足を手術してギブスをはめたままの男の子、歯をぬいた女の子、マラリアにかかっている三つ子の乳児など。町の病院までは余程のことがないと行けない。マラリアにかかっているもだ。三つ子の子どもはまだ生まれて数ヶ月だが、早期発見のおかげでそのマラリアは直るらしい。

それでもこの地域では多くの人が、マラリアで死んでいく。今はエイズよりも多く死んでいく。従来の薬品も効果が薄くなってきている。カヤがあれば流行は防げるのだがそのカヤも買えない。私たちが訪れた三つ子の母親は9人の子どもを持つが、どの子に対しても予防の方法はない。エイズもウガンダでは20%以上が感染者だという。現地のUSEPというNGOではアムダと一緒にへき地の医療・保健活動の中に、エイズの予防、コンドームの使用の講習などを行っている。

マラリアとエイズはアフリカ中どこでもかなり深刻な状況だろう。それも根本的な解決の見直しもなければ、少しでも減るといふ対策も難しいからおさらだ。

海外からの援助はおおきな助けだがまだまだ行き届いていない。援助が行き届いてその国全体の方向が決まってしまうというのもおかしな話だが、コンドームやカヤも援助なしには手に入らないし、このままでは国中にエイズとマラリアが流行する可能性が十分ある。

援助とは何かという話は難しい。

昨日私の所へ知人から一本の電話がかかってきた。

「あなたはアムダの活動を評価しているが、私はアムダを全く信じていない。むしろ必要の

ないことを、例えば国際赤十字などがやればいいことを偽善的にやっているだけだ。新聞なども騒いでいるが、派手好みで…」というような意見でした。

援助に規則が必要だろうか。確かに何かありそうだ。日本の国が今までやって来たODA(政府間援助)はどれも評価が低い。いっぱい援助しても本当に相手の国の国民のためになっているのだろうかという、相手の国の一部の政治家、政府関係者だけが喜んでいて国民にはほとんど何の関係もないことだったり、援助したお金の使い道として日本の企業が現地で工事をしたり、物を売ったりするためのものとか、もっとひどいものになると相手国の独裁政権を助けるだけで、それによって一部の国民はむしろ苦しめられただけというものもある。

しかし、アムダの緊急医療援助にはほとんどそれを制限するものは必要ない。地球の周りの通信衛星が、世界中の様子を茶の間のブラウン管にリアルタイムで運び込む時代になった。インターネットで世界は結ばれて10円でどこへでもE-mailは送れる。海外旅行、国際交流はもとより、移住、国際結婚なども増え、世界中の各国が他国に向かってあれは別の国のこととは言えない時代がすぐそこに来ていると思わなければいけない。ましてや日本は、嫌われながらも全世界から資源を輸入して、全世界へ商品を輸出してそれでやっとなら生きています。

世界に軍事関係でどのように貢献できるか、またはしてはいけないかということはさておき、日本の立場で緊急医療という形の国際貢献を、しかも民間ボランティア団体がやることの意味はあまりにも大きすぎる。橋本総理は中国へ行き、ガイドラインの話で中国側からくぎをさされた。すでに日本嫌いになってしまった中国人(中国の新聞社の世論調査によると日本に親近感を抱くと答えた中国人は北京13%、上海18%と70年代の70%前後の数字と比べものにならない)に政治が戦争責任問題を解決するのは当然のこととしても、もし別の方法もあるとしたら中国に援助するだけでは不十分だ。

ネパール、フィリピンの医師が、アムダのメンバーとして現地の医師や日本人スタッフと一緒にアフリカの難民キャンプで毎日活動している。それは私にとってあまりにも強烈で新鮮なシーンだった。アジアの人とお互いの利益を追求しあうのではなく、共同作業で他の国で働くことこそこれからの日本ができる国際貢献ではなかろうか。

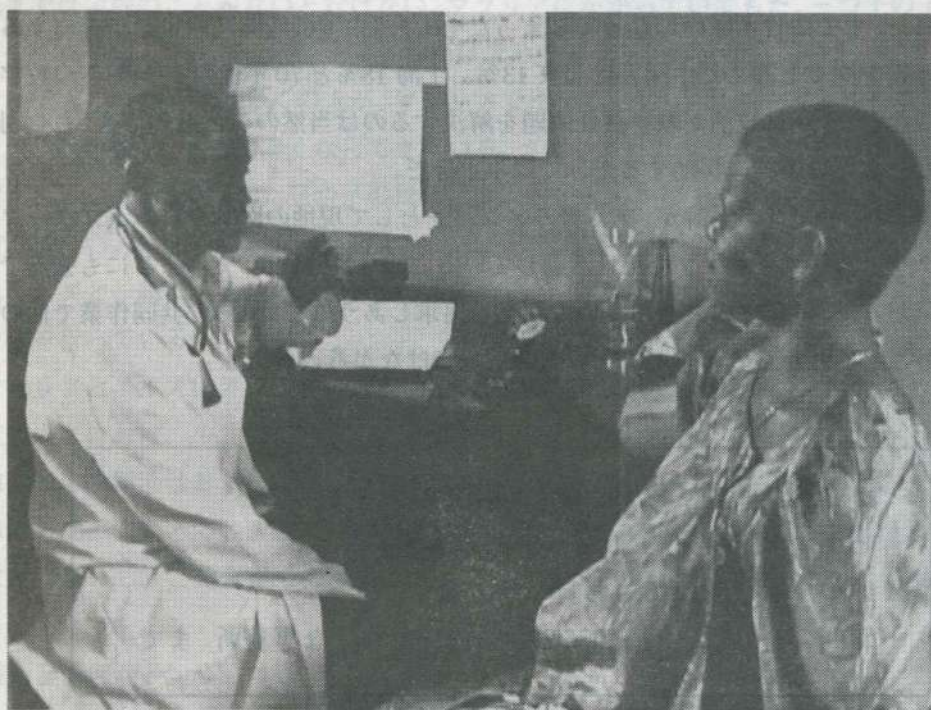
ジブチ共和国、ウガンダでの現地状況を映した
ビデオテープ(約50分)があります。

いつでも、誰にでもお貸し致します。

お問い合わせは、TEL 086-265-6512 たちばな事務所 まで



マラリアにかかっている子供たち



ゴーチの診療所

赤道直下うめ

ウガンダでエイ

35歳、若すぎる死

ナムエ・ドロシマンで死。孤児となった、14歳の兄は根交リスマスさん(75)が養育していた。エイで死んだ。手もなくなった家族は、11歳の子供も止めた。000円の収入がある。15人の兄弟の3人、15人は、送金もできない。5人がエース、1人内職。



賛美歌に送られ臨終

ナムエ・ドロシマンは、14歳の兄は根交リスマスさん(75)が養育していた。エイで死んだ。手もなくなった家族は、11歳の子供も止めた。000円の収入がある。15人の兄弟の3人、15人は、送金もできない。5人がエース、1人内職。

歩み出す。口から血の涙が。涙夜。亡き人夜がら。男の子も神妙な顔で。夜中になって雨になった。家に一人で、死後には。死後には。死後には。

きれいな口紅が掛られていた。暗がりの中、シェニファちゃん、母の顔にびっぴりと顔を寄せると、涙がこぼれ落ちていた。暗くても、母の顔を覗き込んで、涙がこぼれ落ちていた。暗くても、母の顔を覗き込んで、涙がこぼれ落ちていた。



多国籍医師団の結成について話し合うAMDAMンボさん(中央)とウガンダの医師たち

アフリカで活動するNGO

アフリカ教育基金の会(タンザニア)

タンザニア西端、ルワンダと国境の町・ガラ。夜、キャンプ周辺の開発を。ナイロビから大乗りの小機で到着した。船は、アスファルト舗装されていない。砂利が敷きつめてある。土壁が舞う。小柄な日本人女性が出てきてくれた。

大量の難民抱える国境の町 地元の社会開発に力点

スワヒリ語特訓中、土肥優子さん



土肥さん(右)はスワヒリ語を身につけ、現地スワヒリ語のコミュニケーションを身につける。タンザニア・ガラで。

1994年約60万人の難民が押し寄せた。難民が常用をかけた地元の開発。高校が大学に。来国。シカに。前後。外資。系企業に就職したが。飛躍。津1000人の開港に。増加も報告されている。

立ち上がるアフリカの人々

アフリカで活動するのは、欧米日本のNGO。アフリカ自身も。身もままた組織をつ。ルワンダ、キガリ、小さな事務所の一室で、シハ。ビナレオケイティック。耳を傾け、若者の。レオケイティック。1994年4月、内戦。を。半年後、長男。ディックは夫の。長男を失った。財源も。ルワンダでは、内戦。族や部族が。たり、法律相談を必要と

ハグルカの看板

ASSOCIATION UMURYANGO HAGRUKA

Pour la Défense des Droits de la Femme et de l'enfant

Rue Nibabana KIGALI RWANDA

Tel: 7 2205 Tel Fax: 252 7837 a 2 82

また、東アフリカに必要資金を。ケニアに。校。NGOの。扶養。代。も。あ。て。が。から。大。入。大。7。が。ム。が。受。け。付。け。て。い。る。

今年のキャンペーンで、北に。日。海。2000。ポ。1000。

「生」めくう下直道

ウガンダでエイズ患者と共に

毎日新聞社と毎日新聞社会事業団の「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」で、赤瓦葺きのアフリカを題材し、「生」めくう下直道を、エイズに苦しむウガンダ、民族(種族)間の対立から同じ国民が憎しみ、殺し合ったウガンダ……、悲しいアフリカで、日本のNGO(非政府組織)のスタッフらが活発な支援活動を行っていた。今回はその活動ぶり、記者がエイズ患者と過ごした日々を紹介する。アフリカの子どもたちが、平和で豊かな生活を取り戻せる日が早く来てほしいと願っている。

文・小倉 孝保
写真・藤田 勝巳



ナムエス・ドロシーさんが目を引き取り、35年の短い生涯を終えた。エイズだ。ウガンダの東部に近いウガンダ・ゴゴエ。ドロシーさんは16人の子供、15人のうちドロシーさん以外に5人がエイズ、1人が内臓

35歳、若すぎる死

「ママ」娘の目から血の涙

で死亡。孤児となった。幼ねて、聖書の口記が目を引き取り、35年の短い生涯を終えた。エイズだ。ウガンダの東部に近いウガンダ・ゴゴエ。ドロシーさんは16人の子供、15人のうちドロシーさん以外に5人がエイズ、1人が内臓



動物がわりのバナナの葉に座り込み、心細げな子どもたち。ウガンダ・ゴゴエ村。

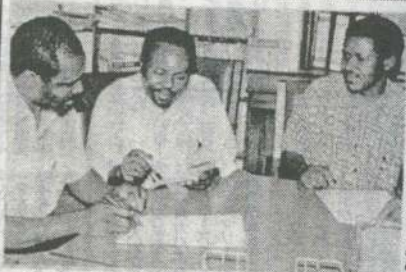
なかに多分、私たちが助けた。ドロシーさんは何もかも抱え、歩み出す。口から血の涙が、乳を吐いた。かたて母を失った。乳を吐いた。かたて母を失った。乳を吐いた。かたて母を失った。

「ママ」娘の目から血の涙。エイズに苦しむウガンダの子どもたち。彼女が抱えているのは、エイズに苦しむウガンダの子どもたち。彼女が抱えているのは、エイズに苦しむウガンダの子どもたち。

「ママ」娘の目から血の涙。エイズに苦しむウガンダの子どもたち。彼女が抱えているのは、エイズに苦しむウガンダの子どもたち。彼女が抱えているのは、エイズに苦しむウガンダの子どもたち。

「ママ」娘の目から血の涙。エイズに苦しむウガンダの子どもたち。彼女が抱えているのは、エイズに苦しむウガンダの子どもたち。彼女が抱えているのは、エイズに苦しむウガンダの子どもたち。

「ママ」娘の目から血の涙。エイズに苦しむウガンダの子どもたち。彼女が抱えているのは、エイズに苦しむウガンダの子どもたち。彼女が抱えているのは、エイズに苦しむウガンダの子どもたち。



多国籍医師団の結成について話し合うAMDAのマンボさん(中央)とウガンダの医師たち

多国籍医師団結成へ奔走。AMDAのマンボさん(中央)とウガンダの医師たち。AMDAのマンボさん(中央)とウガンダの医師たち。AMDAのマンボさん(中央)とウガンダの医師たち。

多国籍医師団結成へ奔走。AMDAのマンボさん(中央)とウガンダの医師たち。AMDAのマンボさん(中央)とウガンダの医師たち。AMDAのマンボさん(中央)とウガンダの医師たち。

多国籍医師団結成へ奔走。AMDAのマンボさん(中央)とウガンダの医師たち。AMDAのマンボさん(中央)とウガンダの医師たち。AMDAのマンボさん(中央)とウガンダの医師たち。

◇中・東部アフリカで活動する日本のNGO◇

NGO名(本部所在地)	連絡先(電話)	活動内容
アフリカ教育基金の会(本部・北九州市)	093-691-6232	タンザニア・ガラの難民支援、ルワンダでの難民支離、援助、ウガンダでの難民支援など
アジア医師連絡協議会(本部・岡山市)	086-284-7730	ルワンダでシェルター(水)建設、ウガンダでエイズ診療所建設など
難民を助ける会(本部・東京都品川区)	03-3491-4200	ルワンダでシェルター建設、難民支援など
地球緑化都市の会(本部・熊本県宇土市)	0964-22-1966	タンザニアでシロアリを使った農業指導など
日本国際航路対策機構(本部・大阪府八尾市)	0729-95-0123	ウガンダの小学校への教育支援など
ワンラブ・プロジェクト(本部・大阪府箕面市)	0727-27-2126	ルワンダで職工工場建設など

※外務省民間援助支室資料を参考とする
このほかにもアフリカで活動するNGOはあります

難民を助ける会(ルワンダ)

給水や婦人の自立支援

「現地に無了され」奥本愛美さん
 さて、ここでは、戦まななと呼ばれるのがよむわがまければ「国際NGO」難民を助ける会(AAR)のルワンダ事務所代表、奥本愛美さん(28)が話している。奥さんは「アフリカの難民が、この道をを」取りつかれたんでしょ」と言っている。奥さんは「アフリカの難民が、この道をを」取りつかれたんでしょ」と言っている。

アフリカで活動するNGO

難民キャンプの孤児たち。日本のNGOの活躍で子どもたちは笑みを取り戻している



AARは、94年にルワンダから、難民の帰還が始まった。ルワンダから難民が逃れるのに合わせて、活動拠点を出した。タンザニア、ルワンダ国内に移した。ラに事務所を設け、水の供給、計画へ行った。昨年から、シスター(上の表)給などを行った。昨年から、シスター(上の表)給などを行った。



給水をしながら行なわれをす。難民を助ける会(AAR)のルワンダ・キンゴワ

トリつぶしてもてなせたのに……心の糧はカソジの歌



カソジの歌を聴くロイスさん

カソジの歌を聴くロイスさん
 ロイスさんは、カソジの歌を聴くことが大好きだ。ロイスさんは、カソジの歌を聴くことが大好きだ。ロイスさんは、カソジの歌を聴くことが大好きだ。

「私たち自分のはずを確保して、余った分を他人のことに使います。アフリカの人には自分のことを放ってあげて、他人のためにどうせしやがらう。アフリカに教えられる者が多いんです。任期は来年2月までの1年間、安定した給水のため、田舎間に雨水をためるための巨大タンクを設置しようと、関係者の調整に走り回っている。本職の道徳で動いて、にまじめに動いて、ちっとも怠らな」



エイズ治療に効果があるといわれる薬を研究する角野さん

JICA 角野文彦医師(ケニア)

東アフリカ・ケニア 角野文彦(ケニア) 博士は、JICAに赴き、エイズのケニア中央研究センター(KEEMR)で、エイズの予防策として、エイズウィンドウの対策として参加した。博士は、薬の投与で、エイズの予防策として、エイズウィンドウの対策として参加した。

HIV母子感染予防に取り組む

角野さんは、エイズの大を卒業して、88年入庁。小児科専攻で、産婦人科に勤務する。角野さんは、エイズの予防策として、エイズウィンドウの対策として参加した。

平和と豊かさを

当センターでは在日外国人に医療機関等の情報を提供していることは、皆様すでにご存知だと思いますが、たまには、以下のような治療についての情報を求めてくるケースもあります。

下肢静脈瘤

「ジョウミャクリュウの治療をしてくれるところはないですか？」は南米出身の相談者からよくある質問です。そこで、静脈瘤って一体何だろうと言う疑問が浮かんできました。実は、私の祖母も静脈が根っ子のように浮き出て脹ら脛（ふくらはぎ）に張っていて、ひどいときには痛みも出るようですが、治療らしいものを一切受けていませんでした。本人はただサポート効果のあるストッキングをはいているだけで、あまり気にしていないようです。私自身もセンターで働く前には静脈瘤の治療について全く知りませんでしたし、日本では切開しなくても治療できるということも知りませんでした。

足がだるい、重い、脹ら脛や膝の裏側の静脈がこぶのように青く浮き上がってくるのが下肢静脈瘤の典型的な症状です。放っておくと湿疹や潰瘍が起こる病気です。日本では最近注射で治す硬化療法が普及していて、保険も適用できます。

センターに来ている相談員の話によると、南米では静脈瘤の治療はさほど大変なことではなく、みんな気軽に静脈瘤を診てもらっていると言います。何故かというと、綺麗な足を保つためだそうです。なるほど、考えてみると相談してきた方も本国でこういう治療があると言っている人が多かったですね。日本では静脈瘤の治療は南米ほど盛んではないため、なかなか診てくれる病院の情報を入手できないのが現状です。センターでは大学病院、総合病院などに問い合わせたり、下肢静脈瘤広報センターに治療を行っている病院を紹介してもらったりなどの対応をしています。

腸洗浄

よく欧米の方から「チョウセンジョウを受けたいから、できるところを紹介して下さい」という相談があります。はっきり言ってそれまでには「ちょうせんじょう」と言う言葉を聞いたことがありませんでした。漢字からみると腸を洗い、きれいにすることだと推測できますが、実際にはどういうものなのか未だにハッキリ分かっていません。

最近、スーパーモデルの間で流行っているから（便秘の解消と宿便がとれる）、日本の芸能人の間でも静かなブームになっていると言います。故元英国皇太子妃ダイアナ氏も定期的に腸洗浄を受けていたようです。

腸洗浄は元々大腸癌などの予防法としてカリフォルニアのC.C.H.S (California Colon Hygienist Society)で行われている水治療法です。肛門に細いチューブを挿入し、精製水をいれて、水を吸引して余剰のガス、粘液、排泄物を出す方法です。密封性の高い機械を使うので、においは気にならないと言います。

結局、センターでは腸洗浄についての情報を把握していないため、情報の提供ができず、外国人医師がいるクリニックを紹介し、問い合わせさせていただくことになります。

もし、腸洗浄についての情報やを行っている機関の情報があれば、是非当センターまでご一報下さいませ。よろしくお願ひします。

(センター東京 L.)

あつと インタビュー

藤原 健 部長 社副

見知らぬ土地で病気になったときの不安。ましてや、そこがことばの通じない外国であった場合は、横山雅子さんの37歳、慶應義塾大学35歳と共にAMDA(アジア医師連絡協議会)国際医療情報センター関西の事務局を預かり、日本で暮らす外国人に電話で医療情報を提供している。アジア・アフリカのホット・スポットで緊急医療援助を続けるAMDAにあつて、一見、地味な国内活動。だが、3年半の活動で、日本の医療が「国際化」に向け課題を多く抱えている実態も見えてきた。

△関西在住の外国人とあって、ター東京)でもほぼ同じです。も、例えば大阪府内外国人登録者約21万人(昨年暮れ現在)ある程度まとまった集団で、集団(1000人)の困難を持つ人たちが暮らす。

◆60力国の人から

「ここで相談を受ける外国人の割合は？」
横山 開設以後、60を越える国の人たちから相談を受けました。多いのは、ペル、ブラジルのなど南米が全体の約半数。最近、南米が全体の約半数。最近、南米が全体の約半数。最近、南米が全体の約半数。

「ここが通じない外国で病気になったときの不安。ましてや、そこがことばの通じない外国であった場合は、横山雅子さんの37歳、慶應義塾大学35歳と共にAMDA(アジア医師連絡協議会)国際医療情報センター関西の事務局を預かり、日本で暮らす外国人に電話で医療情報を提供している。アジア・アフリカのホット・スポットで緊急医療援助を続けるAMDAにあつて、一見、地味な国内活動。だが、3年半の活動で、日本の医療が「国際化」に向け課題を多く抱えている実態も見えてきた。

「イカル・パスポート」などに記され、載せられる病院に照会し、協力を得られる病院を「協力病院」としてスナップ。その中から、内容に応じて紹介するシステムを構築しています。

◆多くの課題が

相談を通じて分かったこと

次に、制度の問題。外国人登録。横山 最も多いことばの問題は、単に話を通じないことではなく、保険加入資格を得ることができない、そのことを知らない、医師が医療内容を十分に説明しているか、患者側が理解しているか、という点です。また、住居、医療の考え方が必要なのは、それを納得できるようにする上、期限の切れた外国人への医療を夫が行われているか、という点です。互いのコミュニケーションに対する不安が背負った点です。

横山 地域に住む人であれば、どこかの国の人でも十分な医療を受けられる、という「地域医療の考え方が必要なのは、それを納得できるようにする上、期限の切れた外国人への医療を夫が行われているか、という点です。互いのコミュニケーションに対する不安が背負った点です。

「医」に国籍の垣根は不要

在日外国人の心身支え

AMDA国際医療情報センター関西事務局

横山 雅子さん



1959年、堺市生まれ。神戸大理学部卒。カナダ・ハリファクスにあるセント・メリーズ大で国際開発を専攻。「センター関西」(06・636・2333)の電話相談は英語、スペイン語=月・金曜日9～17時、ポルトガル語=火曜日13～18時(関係する日本人からの相談もできる)。

「役に立つ情報を、より細かい対応が必要、」と話す横山さん。横山「外国人」といってもひとへりにはできません。英語を話す人ばかりではないし、来日の事情、育った文化も違います。最近になって増え続けている人への対応の一つとして、私たちの活動があるのだと感じています。

AMDA 1979年、医師、医学生計3人がカンボジア難民救済NGO(非政府組織)。アジア圏の医師を援助するに駆けつけたのがきっかけで84年設立。本部・岡山市。世にはめボランティアなど会員は国内1600人、海外800人。

ドクトル外交官奮闘記

5

在フランス日本国大使館 一等書記官 兼 医務官 勝田 吉彰

名物はテロリズム

北アフリカのアルジェリアに出張に行ってきた。北は地中海を介してスペインと向き合い、南をサハラ砂漠に続く、アフリカ第二の大国である。石油や天然ガスをはじめとする天然資源に恵まれ、豊かな大地は穀類や野菜類を産する。首都アルジェは北部、地中海に面しているから、温暖な地中海性気候に恵まれて緑多く、快適な場所のほずである。ところが、現実には世界で最もストレス多き場所のひとつになっている。なぜか。常に、自らの生存そのものが脅かされるから。

この国の報道を見ていると、テロの異常な多さに驚かされる。私の入国した16日前と13日前にそれぞれ自動車爆弾が繁華街で爆発して死傷者多数で周囲の商店は半壊、前日には空港管制塔に迫撃弾が打ち込まれ、出国後も、労組のリーダーや元将軍の暗殺、地方では村ごと襲われるといった事件が続発している。今年のラマダン（断食月）前後の、テロによる死傷者数は実に300人超とのこと。オウム・サリン事件級の出来事が、毎週、日常的に発生しているといえれば実感が湧くであろうか。さらに、驚くべきは、これらが、政府によって新聞発表を許された「氷山の一角」にすぎず、ニセ検問（警官を装ったテロリストが車を止めて身分証明書の提示を求め、政府職員だったり、敵対勢力だったり判明すると、その場で頸動脈切除術が行われてしまうらしい）やら囑託殺人（いわゆる殺し屋。気に入らぬヤツをこの世から抹消してもらおうのにかかるコストがわずかに5,000円弱ナリ）やらが横行と、治安が良いとか悪いとかいうレベルをはるかに越えてしまった状況にある。

こういう現状に至っている背景には政治的争乱がある。今を去ること6年前の91年、この国初めての複数政党制下での国会議員選挙が実施された

ところ、第一次投票でイスラム原理主義政党のFINが大勝利をおさめ、第二次投票にてイスラム原理主義政権が誕生することがほぼ確実視されていた。ところが、突然、現軍事政権側が政情不安を理由に第二次投票を中止したところから、軍事政権側とイスラム原理主義側が鋭く対立、イスラム過激派によるテロリズムが高水準で推移している。以来、94年のエールフランスハイジャック事件、96年のフランス人修道士誘拐殺害事件を筆頭に、しばしば世界中の新聞を賑わしている。

そして、こんな環境下にも、日本国大使館はしっかりと存在し、6名の館員が健気に働いている。ここは、大使館・大使公邸・職員宿舎が、監視カメラ付きの塀で囲まれた同一敷地内に建てられているが、先述の特殊な治安状況のため、この敷地内から一歩も出ることができず、休暇で国外に直行する以外、「塀の中」の生活を強いられる。週末も、どこかへ遊びや買物に行くわけにもいかないから時間のつぶしようがないので、結局大使館の自分のオフィスに出てきてデスクに向かうしかなく、事実上の週7日勤務体制である。館員は単身赴任を余儀なくされ、毎食、同じ顔触れで食卓を囲んで現地人コックの作る、クスクスをはじめとする中東料理（選択の自由なし）を掻き込む。飲み屋で一杯やパチンコなぞ論外、娯楽といえば、自宅に集まりカラオケか、敷地内でテニスラケットを振るぐらいしかなく、ストレスの蓄積度は想像を絶する。売店で日本菓子を買ったり、家族が気軽に面会に来れたりという可能性もないから、その窮屈度は単科精神病院閉鎖病棟のそれを、明らかに上回る。ペルー人質事件以来、少しは世間に知れ渡るようになってきた外交官稼業の苦勞の一端だが、メンタルヘルス面でのバックアップ体制の整備が急がれる。

ところで、現地がこんな状況だから、私の巡回
検診出張も少々特殊な行程となる。パリからチュ
ニジア経由(アルジェ空港でのハイジャック以来、
エールフランスの直航便は運休されているから、
一旦隣国のチュニジアに入り、チュニジア航空で
入るという遠回りをしなければならない)でアル
ジェ空港に着くや否や、護衛付きの防弾車に押し
込まれて大使館敷地にノンストップで直行、防弾
チョッキに銃を構えた門番の待つ入り口に入る
や、鉄扉がガチャンと閉まっておしまい。閉鎖病
棟に入院となる患者心理がよく追体験できる。塀
の中では、全員の検診・カウンセリングと常備医
薬品の整理、メンタルヘルスの小レクチャーをす
る以外の自由時間は食べて寝て軽い運動にだべる
ぐらいで、帰るまで2泊3日出られない。

そういうわけで、他国ではアレンジをおねだり
している精神科医療施設の視察も、(誇張でなく)
生命の危険にさらされるから、当然なしである。
したがって、今回は、アルジェリアの精神科医療
事情をお伝えすることはできません。読者の皆さん、
悪しからず。

自殺の増加

ラテン気質で楽天的、自己主張の強烈的なフラン
ス人を見てみると、「自責的」だとか「自殺」だど
かいう単語とはおよそ縁のない人々という気もす
るが、実はそうでもないらしい。

ここ最近、当地でも自殺の増加が問題になって
いて、1年間の自殺未遂15万件、既遂は1万2千
名という。そのうち若年層(14~25歳)が未遂4
万件、既遂が1,500名という数字になっている。こ



モロッコ王国、ラバトの王宮

れは、この30年間で3倍という激増だから、社会
問題となってマスコミも取り上げる。自殺の方法
は首吊りが多いが、他方、昨年1年だけで警察官
だけで70名あまりもの多数が自殺、そのほとんど
が自分の拳銃を使うという血の気の多さも目立っ
ている。

自殺の原因は孤独、家庭の崩壊、ストレス、将
来への不安、等々といろいろ取り沙汰されている
が、まだはっきりしていない。心的外傷のケアに
見られる如く、メンタルな問題には対応の迅速な
この国のこと、これからどんな対策がとられてゆ
くのか、注目してゆきたい。

1997年度 夏のスタディツアー参加報告

<参加者レポートより抜粋>

◆ネパール

ダマックのAMDAホスピタルの庭や待合室は大勢の患者さんでいっぱいでした。医療施設、医師、看護婦、薬剤師その他の数が不足しているということは勿論、他にも色々な原因が人々の生活の中に複合して存在しているのだらうと思います。人々の日常の暮らしに直接ふれる機会があってとても充実したツアーでした。

本郷 順子

マザーテレサの老人施設でのおばあさん達とのコミュニケーションがとても印象的でした。様々な場所で内容の濃い見学をさせていただきました。

岡内 彩

◆ジブチ (ソマリア難民キャンプ)

私は教育関係(学校設備や内容)のことで調べたいことがあったが、質問にも丁寧に答えてもらい、施設も見せてもらった。キャンプ内の教育と、ジブチ国の教育を比べると、キャンプ内の就学率ほぼ100%(こういう形の教育で就学率と言えるかどうか疑問だが)なのに、村の小学校は50%ほどと聞いて、この差をどう埋めるのかこのままでは将来どのような問題が生まれるのかと、難民キャンプのことよりジブチ国に目が向いた。また、難民キャンプ内に店ができ余剰物(配給)をキャンプ近くの地元の人に売っている。難民の中にも貧富の差が生まれて来ている。

藤木 明代

◆ウガンダ (ゴグヴィ村)

今回のツアーで得たことは、

- 1) 生活 電気、ガス、水道は充分ではないが、食事はトマトベースの日本人好みのマイルドな味付けで、主食のパナナも美味しかった。
- 2) 医療 設備、薬品、医療物資の不足はあきらかで、AIDSの問題は深刻で早期解決が必要な印象が強かった。
- 3) 教育 プライマリースクールでヘルスエデュケーションが充実しているため、AIDS教育も教科書にすごく解りやすく説明されている。
- 4) AMDA ネットワーク
現地のスタッフの役割や地元医師会との繋がり、またUGAND ASSOCIATION FOR SOUAL-ECONOMIC PROGRESSとの協調を知ることができた。

岡本 美代子

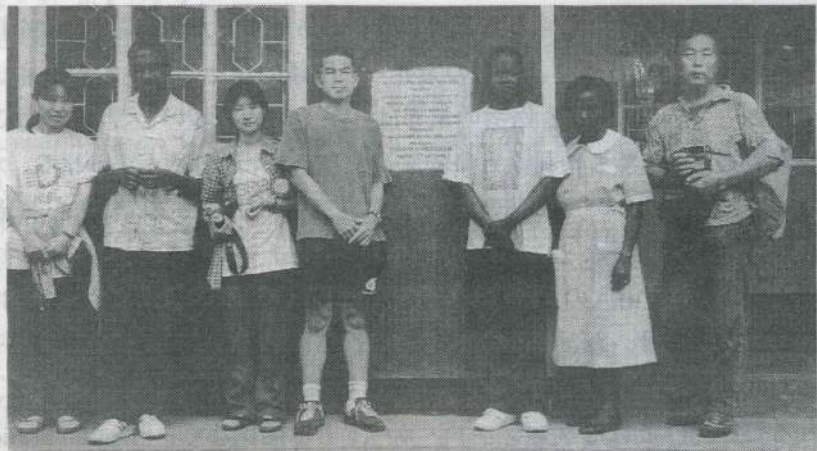
◆中国（雲南省）

目的は後楽ライオンズの寄付による余楽小学校再建の落成式出席と歯科、内科治療プロジェクト実施であった。現地の歓迎ぶりは予想以上であった。落成式の前日から多くの人々が集まり、当日、式典の後の交換会ではお互い餅つきやうどん作りを行い、納西族の民族衣装を着た女性による民族舞踊も披露された。我々もその輪に入って踊ったが、言葉は通じなくても同じ行動をすることにより何か通じるものがあった。

余楽小学校での歯の治療は順番が違っても文句も言わず、数時間も待っていた。また我々の土産にと採れたてのリンゴを大きな竹籠2杯に入れて持ってきてくれたのに、そっと置いて帰ってしまうという謙虚さがみられた。性格の面では中国の広さを感じた。

私自身の目的に中国の都会と農村の実体を見たいと思っていたが、広州の林立する高層ビル、交通渋滞、麗江の農村の質素な生活から中国の抱える問題の大きさが解るような気がした。21世紀に向けて人工問題、食料問題、エネルギー問題、環境問題等課題を抱えているが、日中両国民が協力し合い、精神的な面も含めてより豊かな生活が送れるよう祈らずにはいられない。

土野 和男



ウガンダ ゴグヴィ村のAMDAが立てた診療所の前でスタディツアーメンバーとUSFPフィールドスタッフ
松本哲雄氏撮影

1997年(平成9年)8月22日 金曜日

ネパール支援へ意見交換

AMDA 高校生会 倉敷で帰国報告会



AMDA 高校生会のネパールスタディツアー帰国報告会

AMDA(アジア医師連絡協議会)本部(岡山市備前)の活動に協力する高校生でつくるAMDA高校生会が二十一日、倉敷市玉島島の国民宿舎長寛荘で、ネパールを訪ねたスタディツアーの帰国報告会を開き、地元の高校生と国際支援について意見交換した。

AMDA高校生会のメンバー六人は、貧困に苦しむネパールの子供たちを支援しようと、二日から七泊八日の日程でアトワル市を訪問。AMDAが建設を進めている子ども病院の建設予定地のほか各地の学校や養老院などを訪ね、ストーリーテラレンの現状などを視察した。

報告会は今後のボランティア活動の参考にしようとして、玉島商高(倉敷市玉島中央二丁目)の生徒会などの要請で実現。玉島商高の生徒、教諭計十四人とAMDA高校生会メンバーの換山高二三原祐二君(二〇)岡山市津島新野一六人が参加。三原君らは「養老院ではベッドもなく廊下に寝かされている人がいた(子供たちは貧困にめげず明るく過ごしている)などとネパールでの体験を話した。

玉島商高生徒会長の三年三宅弘明君(二〇)倉敷市玉島商高は「ネパールの人たちの生活の現状などがよく分かった。高校生として何ができるかを考えていきたい」と話していた。

—通じ合える言葉—

9月に入ったと思ったら、急に栃木は涼しくなりました。熟して落ちてくる栃の実の殻がアスファルトの上に赤茶色の模様を染めています。この間まで、街路樹のセミがやかましいほどだったのに、今は秋の虫たちのオーケストラが聞こえてきます。8月31日には地雷撲滅に世界を飛び回っていたダイアナ元妃が、そして9月5日には貧しい人々の救済に生涯を捧げたマザーテレサがと、NGO活動に力を注いだ人の訃報が相次ぎ、心なしか虫の声も寂しげに聞こえてきます。

さて、9月は1日が防災の日、9日が救急の日。緊急医療援助と関連の深い日が2つもあります。私は、防災訓練で埼玉県訓練責任者を仰せつかり、行政の方々、航空会社の方々をはじめ、いろいろな業種の方と話す機会がありました。準備と訓練を振り返ってつくづく感じることは「やっぱり、医者業界って閉鎖的などころがあるなあ...」。

その一つの例は略語。医者業界はとかく略語の多いところ。これは医者業界では世界共通語、とても便利なものです。外来で次々患者さんを診察し、カルテを短時間で書かなくてはならない時や救急の場合など、医者は一番短い業界略語を連発してしまいがちです。しかし、災害救援など、他の業種の人たちとチームを組んで仕事をするときには、「○☆◎●▲▽!」と宇宙人の言葉のように聞こえてしまったり、誤解のもとになったりしてしまう危険があります。たとえば「DM」、これは社会一般にはダイレクト・メールのことですが、私たちの業界では「Diabetes mellitus (糖尿病)」を意味します。また、救急の現場で頻用される「DC」、これはクレジット・カードとは関係なく、「Defibrillation counter (直流除細動)」のことで、命に関わる不整脈(正常では規則正しく動いている心臓の動きが乱れること)のとき用いられる治療法です。「不潔」も誤解されやすい用語でしょう。これは「消毒(あるいは滅菌)されていない」という意味で、一般的な「汚れている」とは違いますが、面と向かって「手が不潔だから触るな! (私たちの間隔では手が消毒されていない状態なので、消毒された場所に触ってはいけない: 感染予防のため)」と言われたら、みんないい気分がしないでしょう。通じ合える言葉って大切だとつくづく感じました。

ダイアナさんも、マザーテレサもみただけで世界の人々に通じる、いわば共通語のようなものだったように思います。早く「AMDA」も世界共通語になりたいですね!

「対人地雷関連映画を見、話し合う会」へ

AMDA 名誉顧問 岩本 淳

7月8日(火)6時から青山のカナダ大使館で、対人地雷全面禁止推進議員連盟代表も特別参加する「対人地雷関連映画を見、話し合う会」へ菅波代表の代理で出席する依頼を受けた。殺人よりも傷害を狙った地雷ほど卑怯な武器はないと思っていたし、最近日本でも地雷を製造しているというニュースに驚いた私だから、他の会の出席を断って参加した。

国道246(オリンピックで拡張された幹線道路)に面したカナダ大使館は広大な敷地の一部を分壊して近代的な建物になっていた。地下2階のシアターに行くとき開会30分前のこととて受付以外に人はいない。シアターに入って若い男子学生が1人いるので話し合う。1最前列に座っている老婦人が「助ける会」の創立者相馬静香さんと教えてくれたので御挨拶に。「AMDAは設立日浅く実力以上に手を広げて問題も多いが、会員の情熱は驚異的であり、今後先輩格の『助ける会』の助力で大きな成果をあげたい」と述べると「AMDAの活躍には目を見張る思いがする。こちらこそどうか協力してほしい」と謙虚に答えられた。

大使の挨拶ではこの運動はカナダが発祥の地であり、短期間に実に150ヶ国以上の賛意を得て、9月のオスロ大会で宣言をまとめ、年末のオタワ大会から実行に移す予定である。地雷の最大生産国であるロシア、中国が態度を保留しているのが問題で、日本を含めた大国が揃って態度を保留している。と問題提起を行った。

スライドに呼びかけ人として、日赤近衛副社長、前記相馬氏、YMCA 宮崎氏に並んでAMDA菅波代表の名が映されたあと、代理出席の岩本が席上紹介された。

ビデオはよく慣れた光景が各地の模様を映し出す。日本ビデオニュースKK 神保哲生氏の30分に渡る世界各地の悲惨な映像は迫力があつた。

壇上にカナダ公使、超党派で議員連盟(382名署名)事務局長藤田幸久氏(難民を助ける会常務理事)、長有紀枝難民を助ける会常務理事(最近行われたフラフセル会議報告)、YMCAアスパー氏(英語)、日赤五十嵐課長が並び、吹浦氏(難民を助ける会副会長)の見事な司会で短時間に多くが語られた。

また、1冊1500円の絵本で10m²の地雷除去が可能とうたって、作詞家の柳瀬房子氏が文を 葉祥明氏がさし絵をボランティアで描かれた、「地雷ではなく花をください」の前編、後編(1600円)が朗読され、購入が促された。

毎日新聞 1997年(平成9年)9月1日(月曜日)

対人地雷禁止条約きょうからオスロ会議

米の修正要求焦点

朝鮮半島 除外など 年内成立に不安も

ワシントン3日電 朝鮮半島の対人地雷全面禁止条約の年内成立を目指すオタワ・プロセスの真実的な最終調整の場となるオスロ会議が1日からフルウェンで開かれる。世界の非政府組織(NGO)の力でまとめた多国籍軍縮合意がなるかどうかに関心が高まっている。初めて正式参加するクリントン大統領の対応も未参加の中国、オースター

①のロシアなど地雷大国の地雷全面禁止を定める運動が注目される。動向は注目される。地雷全面禁止を定める運動は、54カ国・1000団体以上のNGOが結果する「国際地雷禁止運動」(ICBL)を軸に進められ、国際会議は昨年から、連年5回目。カナダ政府がオタワで12月に招請している。開国会議へ向けた事実上の最終ラウンドとなる。毎日新聞が入手した最新

の条約案は全20条。対人地雷の使用、開発、生産、取得、備蓄、輸送を全面禁止(1条)▽備蓄期限は発効から3年以内(4条)、既設地雷は10年以内(5条)に全面廃棄▽保有、配備する地雷の数量、タイプなどを詳細なデータを含めて1年以上以内に国連に提出(8条)▽条約期限は照会期で、脱退には1年間の予告期間が必要(18条)——などを定

めている。最終合意が成れば既存の条約とは異なり、草の根NGOの総意が生んだ史上初の明確な多国間軍縮条約となる。会議の焦点は、米国の朝鮮半島を除外地とする②一部の対人地雷の除外(7条)の修正——など、条約の精神と対立かねない大膽な変更を要求している点。軍縮筋上ると、現行案の確認だけで調印にむかえる国がすでに調印カ国前後に達し、オースターは最終から正式参加に切

り替えた米國が修正要求に固執すれば、年内成立は難しい情勢。一方、地雷大国の米國が調印すれば、未参加の中国、ロシアにも好影響を与えるため、NGO側も米の意向をむしりにはできない。

米政府や国連推計によると、対人地雷の保有者は世界で年間2万5000人に入っており、オスロ条約の行方にも世界の目が注がれている。

ボランティアリレー

杉本 弓

私がAMDAでボランティアをするようになってはや1年経ちました。卒論で国際協力について触れたかったので、大学の先生の勧めもあり、またその頃、中国雲南省の地震でAMDAの活動が毎日のように紹介されていたこともあり、とにかく何かボランティアがしたいとおじゃまするようになりました。

最初の日から「私が求めていたのは、まさにこの場所だ!」と直感しました。小学生の頃、アフリカ・サハラ砂漠での干ばつの状況をテレビ、新聞で見た時以来、国際協力の場で働く人は私のあこがれでした。でも私には大き過ぎる、遠過ぎる夢だとあきらめていました。それが同じ岡山のこんな近くに、世界中で活動するNGOが存在し、私もボランティアとして関わる事ができるということを知り、大げさですが希望の光が見えたのでした。

AMDAに来れば、いろいろな人と会うことができます。事務所のスタッフの皆さん、海外でご活躍の方々、私と同じくボランティアで来られる年齢も職業も全く違う人々。それらの方々を通じ、私自身の世界もどんどん広がっていきました。そして、ずいぶんたくさんの素敵な人々と知り合えました。ボランティアとしての仕事は、コピーをとったり、書類の整理をしたり、発送の準備をしたり、といったことですが、スタッフの皆さんのハードワークを肌で感じる事ができ、とても勉強になります。秋には勇気を出して、ミャンマーへのスタディツアーに参加しました。ここでの体験、出会いもまた貴重な、素晴らしいものでした。そしてミャンマーの実際を知り、貧しくとも明るいアジアの魅力にとりつかれました。

卒論の方もお陰様でボランティアと相互扶助について、AMDAの知恵を拝借させていただいて、何とか書くことができました。どうもいろいろと有難うございました。

何から何までお世話になりっぱなしですが、卒論を終えた後は、再び1ヵ月間、ミャンマーに行かせて下さいというわがまを聞いていただきました。医療ではない、福祉を勉強している私には何ができるのかという私の疑問を解決するには、「もう一度来たらいいですよ」と言って下さったミャンマーの吉岡先生。先生のお言葉に甘え、看護婦の広田さんと本当に行ってしまいました。明確な答えは出なかったけれど、フィールドに出るためのスキルが必要なら、理学療法士の勉強をしてみようか..とぼんやりと考えながら帰ってきました。

4月から就職しましたが、平日が休みなので、あいかわらずボランティアに通っていました。そんな中、なんと私に「海外に行く気はないか」という驚くようなお話がありました。急なお話で迷う間もなく、私は10月から旧ユーゴスラビアに行くことになりました。

今、私は明らかに能力不足ですが、それでもチャンスを下さり、励まして下さるAMDAの皆さんに答えるように、一生懸命やってみようと思います。

最後になりましたが、私に機会を与えて下さり、いつもボランティアに行くたびに温かく接して下さい、大きな影響を与えて下さったAMDAでお会いしたお一人、お一人に感謝いたします。

AMDAへのご支援を

1 AMDAへの入会

- ・医師会員 15,000円
- ・一般会員 10,000円
- ・学生会員 7,500円
- ・法人会員 30,000円
- ・賛助会員 2,000円

会費は入会の月より1年間有効です。入会の月より毎月、会報「国際医療協力」を送付します。賛助会員にはAMDAダイジェストを送付します。

2 AJ AMDAカード 全日信販発行

利用額の0.5%がAMDAに提供されます。

●お問い合わせは

AJAMDAデスク TEL086-227-7161



3 AMDA テレホンカード

- 1枚(50度数) 1,000円
300円が収益となります。
- 送料 2枚まで80円 3枚から無料



4 AMDAボランティア 定期預金

中国銀行

税引き後、利息の20%をAMDAにご寄付いただきます。

中国銀行からも預け入れの口数に応じて、寄付をいただきます。

●お問い合わせは TEL086-223-3111



5 KDD:国際ボラン ティアダイヤル

ご利用金額の一部がAMDAに提供されます。申し込みが必要ですので、お問い合わせはAMDAまで。

6 絵はがき・ カードセット

ルワンダ難民の描いた
キャンプ風景葉書

- はがき 20枚1組 1,000円
- カード 10枚1組 1,000円
- 送料 1組100円 2組200円 3組以上は無料



7 AMDA Tシャツ

■Lサイズのみ1,900円

送料 1枚300円 2枚400円 3枚以上は無料

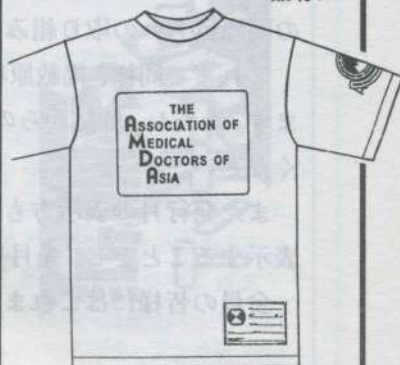
津村ゆうすけ氏デザイン

ファイナルホームの製品

・ホワイト(グリーンロゴ)

・グレー(ブラックロゴ)

・ブルー(ホワイトロゴ) 品切れ



8 AMDA 募金箱設置

AMDA募金箱設置が可能な方、ご連絡下さい。



9 AMDAに お送り下さい

- ・使用済みのテレホンカード
- ・書き損じのハガキ
- ・未使用の切手、ハガキ

等がありましたらAMDAにお送り下さい。

●〒701-12

岡山市橘津310-1

AMDA本部宛

*入会1、購入3 6 7、ご希望の方は、振込用紙に詳細をご記入の上、金額をお振込下さい。

*2 4 は各自で加入して下さい。

*5 8 9 のお問い合わせは、AMDA本部 TEL 086-284-7730へ

あなたもできる国際協力

入会1.は 郵便振替 名義 AMDA 口座番号 01250-2-40709 まで
購入3.6.7.は、 郵便振替 名義 AMDA販売 口座番号 01220-9-8991 まで

事務局便り



◇次号より「国際医療協力」が大幅に変わります。誌名を「AMDA Journal—国際協力—」と改め、大きさもA4版に変更し、発刊することとなりました。一部カラーページとなりプロジェクト活動報告等も写真を多く取り入れるとともに、官公庁、地域、企業、団体、学校の国際協力への取り組みについてもご紹介する予定です。

これまで同様、掲載原稿、写真（説明明記）をお送り下さいいただきますようお願い致します。ただし、他誌からの転載は誌面の都合上取り止めることとなりました。どうぞご了承ください。

また発行月の表示方も今回より変更し、一般月刊誌と同様に今回9月発行分は10月号と表示することとし、先月号からの続き上、9・10月合併号と表示しました。

会員の皆様にはこれまでどおりお送りさせていただきます。

◇先月号に続きまして新しい事務局員の奥田さんに自己紹介していただきます。

7月からAMDA本部に来ることになりました、奥田と申します。

長年住み慣れた広島を離れて岡山に越して来たのが昨年の6月のことで、岡山のこともAMDAのことも分からないことだらけですが、わたしに出来ることで何かお役に立てれば…という気持ちでやって参りました。一生懸命頑張りますので、皆さんどうぞよろしくお願いします。

今後、主にAMDA Internet Station (AMDAのホームページ <http://www.amda.or.jp>) に関する業務に携わることとなります。ホームページを見ていて気が付いたことや要望、新しいアイデアなどございましたら、何でも言ってきてくださいね。(電子メールでもOKです！ kiki@amda.or.jpまで)



◇10月には、倉敷市で4日から7日まで第4回おかやま国際貢献NGOサミットが、広島市では3日に人道援助国際フォーラムひろしま、4日から5日までアジア・太平洋緊急救援フォーラム広島が開催されます。参加費は無料となっておりますのでどうぞご参加下さい。詳しくはAMDA事務局までお問い合わせ下さい。



AMDA Internet Station

Welcome to AMDA Internet Station

What's New

防災訓練ライブ中継

AMDAとは、...

AMDAの目的は、...

AMDAの活動は、...

AMDAの連絡先は、...

AMDAのウェブサイトは、...

AMDAのメンバーは、...

AMDAの活動は、...

AMDAの連絡先は、...

AMDAのウェブサイトは、...

AMDAのメンバーは、...

一カ月あたりのヒット数ト、入会案内など、ボランティアは約九万件、うち海外からティアに興味を持つ人向けのアクセスが四割を占めるのメニューとなっている。国際的なホームページだ。このほか、世界の感染症の岡山市に本部を置くNGO 特徴や治療法を満載した医師(非政府組織)として、世 師専門の熱帯医学データベ 界各国で展開している人道 ースも備える。

開設は一九九五(平成七 援助プロジェクトやイベン

インターネット 交差点



「ボランティアのすそ野が広がった」と話すAMDAスタッフ

AMDA(アジア医師連絡協議会)

<http://www.amda.or.jp/index.html>

国際協力の情報基地

今後の課題という。内容の更新には岡山理科大生が全面協力している。NGOらしく、こんなところにもボランティア精神が息づいている。

海外支部との連絡には、電子メールが威力を発揮する。現地状況を瞬時に発信し、現地に駆け付けられる人を探して派遣できる。作成した沢田寛医師(三六)は「緊急救援に必要な速報性、専門性、情報の共有性がそろっている」と効用を強調する。ただ、大地震などの災害時は回線がパンクしてつながらない恐れもあり、今後の課題という。

年九月。きっかけは一月に起きた阪神大震災だった。現地に一番乗りして治療を始めたが、通信が途絶え、活動に支障が出た苦い経験がある。そこで、緊急通信手段の一つとしてインターネットの活用を思い立った。

毎日新聞 1997年(平成9年)8月31日(日曜日)

医療活動をインターネットで AMDAが実験中継

茨城 防災訓練現場できょう

世界18カ国に支部を持つ、医療援助や災害救援を展開している非政府組織(NGO)のアジア医師連絡協議会(AMDA、本部・岡山市)豊後茂代表は、茨城県が31日に行う総合防災訓練に参加し、緊急医療活動の訓練の様態をインターネットで実験中継する。救援活動と併せ、災害の緊急情報を現場から世界中に即時に発信し、現場の実情把握や支援者の理解を求めるのが目的。NGOが、国内外の災害現場で自前の広域放送を行う先駆けとなる。

訓練は防災の日(9月1日)を前に、大地震発生を想定し、同県守谷町で約2000人規模で実施する。AMDAからは36人が参加し、(ヘルicopter)や救急車などで現場に駆けつけ救援所を設置する。被災者の応急医療や治療の緊急度別に振り分ける「トリアージ」などを行う。

これと並行して、メンバーのうち12人が、特殊なビデオカメラでトリアージの様態などを撮影、インターネットに送り込む。実験では、同時に大量の情報を送り込めるISDN回線を使用するほか、通信網が寸断された場合も想定し、携帯アンテナを使った衛星通信回線の使用も試みる。

AMDAは昨年、防災の日に合わせて、東京都や埼玉県との総合防災訓練に参加。AMDAの構想では今後、こうしたインターネット放送で国内外の被災者と医師チームを取り巻く環境を広く伝え、支援者の理解を深めていく。

茨城県訓練でのAMDA責任者の鎌田裕十郎医師は「国境を超えた活動では通信手段の確保が難しい。現在、各国のNGOが、インターネットの活用方法を模索している。私たちもAMDAの表情に合った方法を追求したい」と話している。

同県のAMDA防災訓練の中継は31日午前10時～午後0時50分。アドレスは <http://www.internet.or.jp/netv/BOSAI/>

【大島 秀利】

AMDA 国際医療情報センター 1997年度運営協力者

以下の方々にご協力いただいています。ありがとうございます。(順不同敬称略、除く会員、8月末現在)

ご寄付

個人 山田博昭、西中満寿子、小林米幸、丹 邦子、岩井くに、大沢ミヨ、森明男、相馬久子、清水茂美、ジャムシティ ジャムシッド、ミラー エリザベス、瀬戸幸子、加藤豊子、山名克巳、八重橋美喜、乙幡和雄・義子、松井恵子、牧野節子、坂田稔、佐藤光子、竹内七郎、海野尚久、刈野貞、奥山巖雄、井上美由紀、岩淵千利、大多和清美、秋田美乃枝、浜京子、松木豊、佐藤昌子、ジル ジェイクソフツ、松井眞、岡島隆子、鶴田光子、富岡宏乃、新倉美佐子、伊藤眞由美、平井敬一

団体 三井物産(株)、第一電工(株)、晃華学園暁星幼稚園、山田皮膚科医院、田宮クリニック産科・婦人科、オカダ外科医院、高橋クリニック、小林国際クリニック募金箱、黒沢クリニック、耳鼻咽喉科早川医院、いずみの会、サンタマリアスクール、(有) フラワーオート、聖マルコ教会、目白聖公会、東京聖マリア教会、三光教会、聖パウロ教会、小金井聖公会、東京聖テモテ教会、東京聖十字教会、聖アンデレ教会、神田キリスト教会、葛飾茨十字教会、聖ルカ礼拝堂、八王子復活教会、池袋聖公会、日本聖公会東京教区、(株) エスオーエスジャパン、高岡クリニック、興和新薬(株)、三共(株)・グラクソ三共(株)

(お名前を掲載しない方 11名)

助成金

大阪府国際交流財団(国際交流リーディング事業)、(財)電気通信普及財団(福祉、文化事業援助金)
ライオンズクラブ チャリティーファンド(両親学級のため)

ご寄付のお願い 当センターは寄付などにより運営されています。おいくらからでも結構です。
ご支援よろしくお願ひ申し上げます。

会員募集 精神的、経済的に援助して下さる会員の方を募集しております。

当センターはAMDA(本部岡山)とは会計が別のため、独立した会員制度を設けております。

AMDA 本部の会員ではございませんので、お間違えのないようお願いいたします。

会費：個人会員 1口 6,000円 / 団体会員 1口 20,000円
学生会員(高校、大学、専門学校生) 1口 2,000円
ジュニア会員(中学生以下) 1口 1,000円

4月より翌年3月までを1年間とする。何口でもけっこうです。

広告募集 年間12万円

以上詳細はセンター東京(03-5285-8086)までお問い合わせ下さい。ご協力をお待ちしております。

郵便振替：00180-2-16503 加入者名：AMDA国際医療情報センター

銀行口座(広告料のみ)：さくら銀行 桜新町支店 普通5385716

口座名：AMDA国際医療情報センター 所長 小林米幸

フラワーオート

FLOWER AUTO

日本全国引取り納車OK

新車中古車販売・車検・修理・板金・保険
自動車のことならお気軽に、御相談下さい。
神奈川県藤沢市片瀬376 TEL 0466-26-7744

☆☆☆☆ 好評発売中 ☆☆☆☆

新発売「16ヶ国語歯科診察補助表」

「11ヶ国語診察補助表」

9ヶ国語対応「服薬指導の本」

各5,000円(税・送料別)

お申し込みは：AMDA国際医療情報センター
東京事務局 ☎03-5285-8086

内科(老人科) 理学診療科
医療法人社団 慶成会



青梅 慶友病院

〒198 東京都青梅市大門1-681番地

●入院のお問い合わせ—TEL.0428(24)3020(代表)

院長 大塚 宣夫

産婦人科 心療内科
OB/GYN/PSYCHOTHERAPY

伊勢佐木クリニック

ISEZAKI WOMEN'S CLINIC

〒231 横浜市中区伊勢佐木町3-107

Kビル伊勢佐木2階

☎045(251)8622



大鵬薬品工業株式会社

〒101 東京都千代田区神田錦町1-27

内科・理学診療科
福川内科
クリニック

東成区東小橋3-18-3

(住友銀行鶴橋支店前)

ボンジービル4F ☎974-2338

外科 整形外科 形成外科 脳神経外科
肛門科 内科 泌尿器科



医療法人社団 慶泉会

町谷原病院

〒194 東京都町田市小川1523

☎0427-95-1668

内科 消化器科 整形外科 神経内科
精神科 理学診療科



医療法人社団 永生会

永生病院

脳ドック
老人保健施設
1777開設

◆人間ドック 企業健診◆

774床

〒193 東京都八王子市桐田町583-15

☎0426-61-4108

有限会社 都商会

サリ一薬局

〒214 川崎市多摩区宿河原2-31-3

☎044-933-0207

エリ一薬局

〒214 川崎市多摩区菅6-13-4

☎044-945-7007

マリ一薬局

〒214 川崎市多摩区南生田7-20-2

☎044-900-2170

十字路薬局

〒211 川崎市中原区小杉御殿町2-96

☎044-722-1156

セリ一薬局

〒216 川崎市宮前区有馬5-18-22

☎044-854-9131

アミ一薬局

〒242 大和市西鶴間3-5-6-114

☎0462-64-9381

マオ一薬局

〒242 大和中央5-4-24 ☎0462-63-1611



お手本は、
自然のなかにありました。

シロクマ
シロクマ



小さな知恵から、豊かな未来へ。 全社



クヤマ薬品(株)

〒102 東京都千代田区紀尾井町3-12
紀尾井町
☎03(3238)2700 (代表)

WE SUPPORT YOU

全世界への 格安国際航空券 手配と販売
対応言語、英語、スペイン語、タガログ語、タイ語、韓国語、ベンガル語、
ヒンディー語、ウルドゥ語、マレー語、インドネシア語、北京語、
上海語、広東語、福建語、客家語、ペルシア語、ミャンマー語、
アラカン語、フランス語、日本語、22言語に及ぶ



総合受付 ☎03-3340-6745

アクロス新宿フライトセンター

一般旅行業第835号
〒160 東京都新宿区西新宿1-19-6 山手新宿ビル2F
航空券はアクロスへ 医療相談はAMDAへ



医療法人社団
三好耳鼻咽喉科クリニック
院長 三好 彰

〒981-31 仙台市泉区泉中央1-23-6

☎022-374-3443
FAX 022-378-3886

循環器科・内科・心臓血管外科



医療法人社団

北光循環器病院

理事長 太田 茂樹

〒065 札幌市東区北27条東 8丁目

TEL 011-722-1133 FAX 011-722-0501

♣ 消化器科・外科・小児科 ♣

小林国際クリニック

Kobayashi International Clinic

小林国際医院

診療時間： 平日 月曜日～金曜日
9:15～12:00 / 14:00～17:00
土曜日
9:15～13:00
休診日 水曜日、日曜日、祝祭日

☎ : 0462-63-1380

神奈川県大和市西鶴間3-5-6-110

小田急江ノ島線・鶴間駅下車徒歩4分

第13回
国際医療協力研究会

10月23日(木) 18:30~20:30

報告者 李 姫子

「旧ユーゴスラビア JEN 活動報告」

会費 500円

アイオス五反田ビル2階会議室

AMDA オフィス

03-3440-9073

ご・案・内

1997年度
テレビ・ラジオによる
中国地区大学放送公開講座
放送のお知らせ

■テレビ講座

海—その姿と人のかかわり

- ・中国放送 10月4日~12月27日
毎週土曜日 午前5:30~6:00
- ・西日本放送 10月5日~12月28日
毎週日曜日 午前5:20~5:50

■ラジオ講座

現代ボランティア論

- ・中国放送 10月4日~12月27日
毎週土曜日 午前6:00~6:30
- ・西日本放送 10月12日~1月4日
毎週日曜日 午後7:00~7:30

AMDA

使用済みテレホンカード
収集キャンペーン

..... 1997年12月末まで

AMDAでは、今年1年間、あなたもできる国際協力の一環として、使用済みテレホンカード収集キャンペーンを行うことになりました。

あなたの周りでおもっているテレホンカードはありませんか。まわりのみんなに声をかけ合って使用済みテレホンカードを集め、AMDAまで送ってください。よろしくお願いします。

お問い合わせは、AMDA本部まで

〒701-12 岡山市椿津310-1

TEL 086-284-7730

FAX 086-284-8959

収益金は途上国の子どもたちへの
医薬品等の費用となります。



AMDA ホームページ
AMDA Internet Sttion
<http://www.amda.or.jp>

お知らせ

会費、ご寄付、その他ご購入のための振込口座を下記銀行にも設けました。
従来の郵便局の口座かいずれかをご利用下さい。

中国銀行一宮支店 (普通) 口座番号 1272011 口座名 AMDA

第一勧業銀行岡山支店 (普通) 口座番号 1816947 口座名 AMDA

■AMDA入会の手続きについて

左側にとじてある郵便振替用紙に入会希望と明記し、所定の年会費を納入して下さい。

国際医療協力 Vol.20 No.9・10 1997

■発行日 1997年9月28日
■発行 AMDA・アムダ
■編集 山本秀樹・田代邦子・大谷直美
■連絡先 岡山市榎津310-1
TEL 086-284-7730
FAX 086-284-8959



国際医療協力 九・一〇月号 一九九七年九月二十八日発行(毎月一回二十八日発行) 一九九五年一月二十七日 第三種郵便物認可 定価八〇円